

平成 27 年度 研究紀要

研究主題

豊かに学ぶ子どもを育てる

～言語活動を通して確かな読みへ～

平成 28 年 3 月

大阪市立豊里小学校

研究主題

豊かに学ぶ子どもを育てる
～ 言語活動を通して確かな読みへ ～

I . 研究にあたって

1. 主題設定の理由

本校の教育目標は、「豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる教育実践を推進する」としている。

具体的に、めざす子ども像として、

- ・自信をもって学習に取り組む子に。
- ・主体的に取り組むことのできる子に。
- ・学び続けることのできる子に。

を設定し、授業力向上にむけて研究に当たることとした。

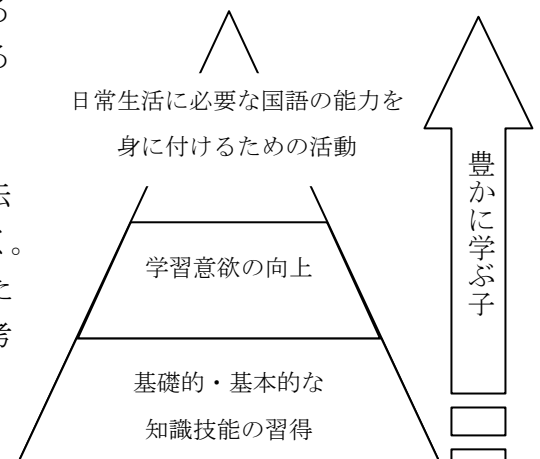
「豊かに学ぶ子ども」を育てていくために、3つの段階を設定した。

まず、第1段階は基礎的・基本的な知識技能の習得である。国語科の「しんだん」、「学力・学習状況調査」の結果から、国語科に対して、苦手意識を持つ児童が少なからずいることが判明した。実際の言語活動においては、言葉・文字に関する知識が欠かせない。これらを定着させることにより、自信を持って学習に取り組む児童が育成できると考える。

第2段階として、学習意欲の向上を設定する。国語科に対する苦手意識を払拭するためには、言語活動を充実させる必要がある。基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することができるような活動を行うことで、児童の学習意欲を喚起できると考える。

第3段階は、日常生活に必要な国語の能力を身に付けることができるような活動とする。それには、書かれている事柄を正確に理解すること、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現することが重要であると考え。そこで、文学的な文章・説明的な文章を正確に理解し、伝え合う力を高めることができる有効な手段を研究していく。

以上のことから、主体的に学習に取り組み、生涯にわたって学び続けることのできる児童を「豊かに学ぶ子」と考え、主題を設定する。



2. 研究の内容

本年度の「全国学力・学習状況調査」で「国語の学習は好きですか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童は全体の 51.7%と全国の割合だけでなく、大阪市の割合と比較しても低い。これは、本年度だけに限ったことではなく、これまでの状況調査からも同じような傾向がみられる。このように、本校には、国語の学習について苦手意識を持つ児童が少なくないことが明らかになった。

そこで、語彙や言葉に関する知識を増やすことで、国語に対する苦手意識を払しょくし、言語活動を行うことで、国語の楽しさや表現する楽しさを味わい、進んで文章を読むことができる子どもを育成しようと考えた。

研究の内容をまとめる。

① 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るために

定期的に漢字テストを行ったり、辞書引き学習を行ったりするなど、これまでの授業での取り組みだけでは言語に関する基礎的・基本的な知識の習得時間を確保することができない。そこで、なお一層の反復（スパイラル）学習を実施し、それを通して、それらの知識を習得する必要があると考えた。その方法として、これまで算数科で行ってきた「さんさんプリント」の取り組みに国語科の内容も取り入れ、以下に示す通りに行った。

「さんさんプリント」

（ア）目的

- ・基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけさせ、習熟を図る。
- ・週4回、プリントなどを用いて学習することで、繰り返し学習の習慣化を図る。
- ・「できた」という体験や、できたものの積み重ねを残すことで、達成感・成就感を味わわせ、新たな目標をもち、意欲的に取り組む態度を育てる。

（イ）実施時期・時間

- ・学期始め・学期末を除く月・火・木・金曜日
- ・午前8:35～8:50の間で答え合わせも含めて5分間
(学級の実態に応じて、時間を変更しても良いこととする)

（ウ）実施方法・内容

- ・5分間で答え合わせまでできる問題数とし、児童が集中して取り組めるようにする。
- ・プリント等の作成は、各学年で行う。
- ・答え合わせは児童が自分で行い、間違いに気付けるようにする。
- ・プリントなどに対する評価は行わない。

この「さんさんタイム」を活用することで、基礎的・基本的な知識を習得する時間が授業時間外に設定されるようになり、45分の授業の中で、じっくりと教材を読み進めることができるようになった。また、反復練習を行うことで、苦手を克服することができ、漢字などの言語に関する事項が定着しつつある。

② 学習意欲の向上を図るために

③ 日常生活に必要な国語の力を身につけるために

児童の「学びたい!」「もっと知りたい!」という意欲を喚起するためには、習得した技能を自分なりに表現する活動、すなわち言語活動の充実が欠かせない。また、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力や互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力、すなわち、日常生活に必要な国語の力を身につけるためにも、言語活動は必要である。児童の発達段階に応じ、付けたい力は何かということに常に意識しながら、言語活動を設定してきた。

各学年で、重点教材を設定し、以下のような言語活動を行った。

＜教材と言語活動＞

| 学 年 | 教 材 | 具 体 的 操 作 活 動 |
|-----|----------------|--|
| 1 年 | いろいろな ふね | さまざまな乗り物について調べ、「のりものブック」を作って紹介しあう。 |
| 2 年 | 名前を見てちょうだい | 自分の好きな場面を選び、登場人物の様子や場面の様子を想像しながら、動作化・音読する。 |
| 3 年 | 人をつつむ形ー世界の家めぐり | 世界の家について調べ、自分のお気に入りの家を、現地リポーターになりきって説明する。 |
| 4 年 | 走れ! | 吹き出しに人物の気持ちを書き、それらが変容していく理由を交流する。 |
| 5 年 | テレビとの付き合い方 | 筆者の論の進め方を参考に、自分とメディアの関わり方について意見文を書く。 |
| 6 年 | 風切るつばさ | 人物関係図を用いて、人物相互の関係をまとめ、作品から強く語りかけてきたことを紹介しあう。 |

また、本年度は「C読むこと」を重点教材とした。年間を通しての各学年の目標は、学習指導要領を参考にし、次のように設定した。

低学年

- ・書かれている事柄の順序を考え、内容の大体を読むことができる。
- ・場面の様子を想像しながら、読むことができる。
- ・楽しんで読書をしようとする態度を育てる。

中学年

- ・中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係に着目して読むことができる。
- ・登場人物の性格や気持ちの変化などを叙述を基に想像して読むことができる。
- ・幅広く読書をしようとする態度を育てる。

高学年

- ・文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。
- ・登場人物の相互関係や優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- ・読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

教科書に掲載されている教材文だけでは、日常生活に必要な国語の力を身につけることができない。そこで、並行読書にも取り組んだ。教科書教材に関連する図書や資料を読むことで、知識を広げたり、教材文の読みで身につけた技能を活用したりするようにした。

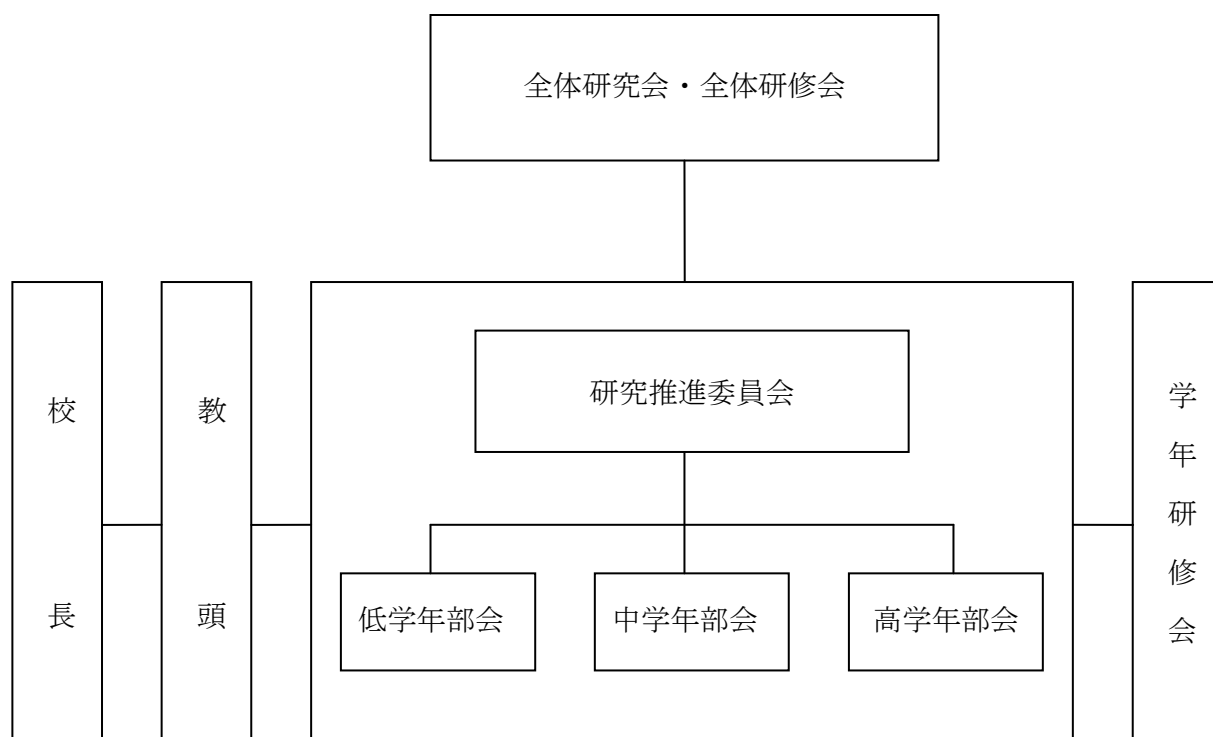
(ア) 校長戦略予算の活用

校長戦略予算として、図書の購入を行った。教科書に掲載されている同じ著者の書いた本、同じテーマの本などを計画的に購入した。中でも、重点教材の関連図書については、クラスの児童が一斉に読むことができるよう、1クラスの人数分用意し、キャスター付きの本棚に収納した。これにより、必要な時に、いつでも手に取って読書をしたり、資料を調べたりすることが可能になった。

(イ) 学校図書館部との連携

学校図書館より20冊を限度として、本を教室に運び、学級文庫に加えてもよいことにした。児童の興味のある本を教室に持っていくことで、進んで読書しようとする姿が見られるようになった。

Ⅱ．研究の組織と経過



1. 研究の組織

- 全体研究会
 - ・ 研究授業・研究討議会
各学年及び研究推進委員会で検討・作成された指導案により、各学年 1 名の代表者が授業を行い、全員が参加する。授業後、研究討議会において、実践についての指導法や指導計画を振り返り、成果と問題点を整理し、今後の授業研究の課題を明らかにする。
- 全体研修会
 - ・ 本校の課題や研究内容について全員で共通理解を深め、指導力の向上に努める。
(児童理解・人権教育・事例研修など)
- 学年研修会
 - ・ 研究主題をもとに各学年の研究計画を立て、授業を通して指導法を工夫する。
 - ・ 隣接する 2 学年が連携し、日常の授業研究や指導法を工夫できるようにする。
- 研究推進委員会
 - ・ 研究部長、各学年 1 名の代表者、教務主任、教頭、校長で組織する。
 - ・ 研究内容を明らかにし、主題に関わって研究の方向性を示す。
 - ・ 指導案の検討や資料の収集・整理にあたり、各学年の実践記録をまとめる。
- 若手研修会
 - ・ メンターを中心に、5 年目までの若手教員で組織する。

2. 研究・研修の経過

| 月 | 研究会・研修会 | 研究・研修の主な内容 |
|----|--|--|
| 4 | 全体研修会 | ・ 研究内容の共通理解 |
| 5 | 研究推進委員会 人権教育研修会 実技研修会 研究推進委員会 | ・ 研究の組織と年間研究計画の作成 ・ 児童理解 ・ スポーツテストの実施について ・ 高学年指導案検討会 |
| 6 | 授業研究会・討議会 研究推進委員会 | ・ 6年「風切るつばさ」 ・ 中学年指導案検討会 |
| 7 | 授業研究会・討議会 | ・ 4年「走れ」 |
| 8 | 実技研修会 | ・ 音楽科研修会 ・ エピペン研修会 ・ 外国語活動研修会 |
| 9 | 実技研修会 | ・ 国語科研修会 |
| 10 | 人権教育研修会 研究推進委員会 授業研究会・討議会 研究推進委員会 | ・ 校内人権教育研修会 ・ 低学年指導案検討会 ・ 2年「名前を見てちょうだい」 ・ 低学年指導案検討会 |
| 11 | 授業研究会・討議会 研究推進委員会 人権教育研修会 | ・ 1年「いろいろなふね」 ・ 中学年指導案検討会 ・ 児童理解 |
| 12 | 授業研究会・検討会 | ・ 3年「人をつつむ形―世界の家めぐり」 ・ 新任研修「かさこじぞう」(2年2組) ・ 新任研修「分数」(3年2組) |
| 1 | メンター研修会 研究推進委員会 授業研究会・検討会 | ・ 授業技術向上のために ・ 高学年指導案検討会 ・ 5年「テレビとの付き合い方」 |
| 2 | 人権教育研修会 研究推進委員会 メンター研修 | ・ 児童理解 ・ 研究のまとめ ・ 一年間の振り返りと次年度への課題について |
| 3 | 人権教育研修会 研究推進委員会 | ・ 児童理解 ・ 次年度の研究について、新年度の計画 |

第1学年 「いろいろなふね」

指導者 小倉 静

日 時 平成27年11月13日（金）第5校時（13：45～14：30）

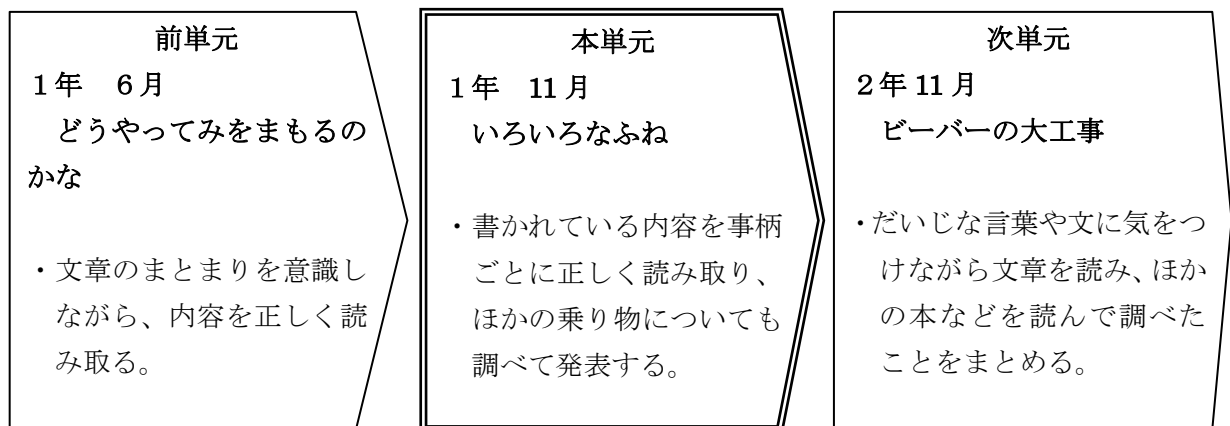
学年・組 第1学年2組（在籍36名）

場 所 1年2組教室

単 元 のりものブックをつくろう

（「いろいろなふね」東京書籍 1年下）

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- 書かれている内容を事柄ごとに読み取り、他の乗り物についても調べて発表することができる。
- ・それぞれの乗り物の役目と、どんなつくりをしているかを表す大事な言葉を見つけながら読むことができる。
- ・乗り物に興味を持って説明文を読んだり、好きな乗り物について調べたりすることができる。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|---|---|------------------------------|
| ・説明文に興味を持って読み、大事な言葉を見つけようとしている。 ・自分の好きな乗り物を紹介しようとしている。 | ・文章の中の大事な言葉を見つけながら読んでいる。 ・乗り物に興味を持って説明文を読んだり、好きな乗り物について調べたりしている。 | ・各船の特徴を主語と述語の関係に注目しながら読んでいる。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、前単元「どうやってみをまものかな」で、初めて説明文を読む学習をしている。その際、事柄の順序に気をつけて内容を読んだり、わかったことを発表したりする活動に取り組んだ。初発の感想を交流した際には、動物の身の守り方への驚きや感想と共に、教科書だけではわからない疑問点や知りたいことなどの意見も多く出された。前単元では、指導者が詳しい情報を与えながら教科書を読み進めていったが、ひらがなの学習がまだ定着していない児童もいたため、図鑑などを活用し、調べるという活動までは至らなかった。

また、内容を正しく読み取るために、挿し絵と文を照らし合わせながら読んだり、動作化をしながら身の守り方を友だちに説明したりする活動を行った。児童は、説明されているのが動物であることから親しみをもちやすく、身を守っているときの動物の気持ちを想像して読むことのできる児童もいた。その一方、意欲はあるものの、文章から大事な言葉を見つけることがまだ難しい児童も多い。文章をしっかりと読まず、絵だけを見て答えてしまう児童がいる。また、似たような形で書かれている「やまあらし」と「あるまじろ」の身の守り方は読み取れるが、文が一つ増え、挿し絵だけではわからない体の内部のしくみについて説明されている「すかんく」については、読み取るのが難しいという児童がいるのも現状である。

説明する文章の形が少し変わっても、そこから大事な言葉を見つける力や、絵や写真だけでなく、書いている言葉を読んで理解する力をつけていきたい。

【単元観】

児童の実態を受け、つけたい言語の力を「C読むこと」の指導事項エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」とする。この力をつけるために、「のりものブックをつくる」という言語活動を位置づける。

本教材「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持った4種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などを紹介している。それぞれの例示が、似た文章構成と文型で説明されているが、「どうやってみをまものかな」で「すかんく」が少し文章の形を変えたのと同じように、「きやくせん」と「フェリーボート」、「ぎょせん」と「しょうぼうてい」では、少し文章の形が変わっており、児童観で挙げた、大事な言葉を見つける力をつけるのに適している。

また、1年生にとって身近な乗り物として、自動車や電車などは、興味や関心が高く、知識もあると考えられる。しかし、教材文の船は、どちらかというとなじみも薄く、非日常の乗り物である。初めて知ることも多く、写真や文を手掛かりにいろいろな船の役目やつくりについて関心を持って読むことができる教材である。

そして、「他の船はどうなっているのか」「他の乗り物はどうなっているのか」と興味を膨らませ、いろいろな乗り物について調べたいという意欲を高めることができる。よって、本単元の言語活動である「のりものブックをつくる」ことに取り組ませやすいと考える。

【指導観】

本単元では、「のりものブックをつくる」という活動に取り組むため、あらかじめ読書環境を整え、児童が乗り物に興味を持てるようにしたい。乗り物の説明文の本だけでなく、乗り物の出てくる物語なども学級文庫に用意しておき、説明文に苦手意識を持つ児童も、学習に入りやすいようにしたい。

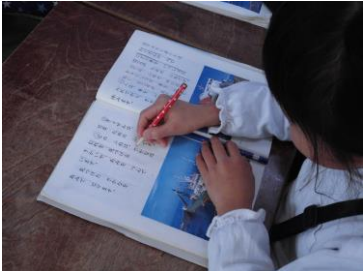
第Ⅰ次では、単元全体を見通し、目的意識を持ち、興味・関心を持って学習できるように、「のりものブックをつくる」という言語活動を設定し、児童に提示する。教材文を読んでもよその内容をとらえ、船に乗った経験や、船について知っていることを自由に出し合うことで、興味を喚起したい。そして、もっと知りたいことについて話しあい、今後、各自乗り物について調べるといった目的が明確になるようにする。教材文の読み取りに入る前に、文章をまとまりごとに分けることもしておく。

第Ⅱ次では、教材文を読み、「のりものカード」へまとめることが中心となる。4つの船の役割とつくり、できることを写真を手掛かりに読み取り、「〇〇は、～のためのふねです。」「このふねの中には、～があります。」「人は～します。」という基本的な文型にそってまとめるようにする。この学習が、第Ⅲ次の、自分で選んだ乗り物について調べまとめることにつながるので、語句を確かめ、色分けしてラインを引くようにすることで、支援をしていきたい。特に、それまでと表現のちがいがあがる漁船の段落でも、役目やつくりが正しく読めるようにしたい。また、単元を通して活用するワークシート「のりものカード」は、「役目」「つくり」などの項目をあらかじめ作っておくことで、大事な文や言葉が抜き出しやすいため、字を書くことが苦手な児童にも取り組みやすいと考えた。

第Ⅲ次では、ここまでの学習と並行読書で得たものを元に、各自好きな乗り物を調べ、調べたことを「のりものカード」にまとめる。その際には、「〇〇は～のための（のりもの）です。」「この（のりもの）の中には、～があります。」「人は～します。」という文型におきかえて考えることで、その役目やつくり、できることを見つけられるようにしたい。第Ⅱ次で各船についてまとめたカードと、第Ⅲ次で各自調べたことを書いたカードを「のりものブック」としてまとめる。さらに、「のりものカード」を読みあい、感想を交流することを通して、友だちの文章の良いところに気づけるようにしたい。そしてこの学習を通して、楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む力が身につくようにしていきたい。

5. 学習指導計画（全 10 時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|--------|---|--|---|
| Ⅰ 次 | 1 | ○ のりものブックをつくることを知る。 ○ 教材文を通読し、第一次感想を交流する。 | ・ 好きな乗り物を調べて「のりものブック」をつくることを伝え、のりものブックやカードを例示することで、意欲をもたせるようにする。 ・ 題名や写真をもとに教材文への興味をもてるようにする。 ・ 分かったこと、不思議に思ったこと、もっと知りたいことなどを考えて発表する。 |

| | | | |
|------------------|----|--|---|
| | 2 | ○ 教材文をまとめ ごとに分ける。 | ・ 形式段落に分け、説明文のおおまかな構成を 知らせる。 |
| Ⅱ 次 本 時 | 3 | ○ 客船について書か れていることを読み、 まとめる。 | ・ 「～は～ためのふねです。」「このふねの中 には～があります。」「人は～します。」などの基 本的な文型を提示し、確認しながら読むように する。 ・ 「役目」「つくり」「できること」を表す大事 なことばを見つけ、まとめられるようにする。 |
| | 4 | ○ フェリーボートに ついて書かれている ことを読み、まとめ る。 | ・ 客船で学習したことをもとに、三つの文型を 確認する。 ・ ペアで尋ねたり答えたりする活動を取り入れ ながら、「役目」「つくり」「できること」を見 つけられるようにする。(あるいはグループで) |
| | 5 | ○ 漁船について書か れていることを読み、 まとめる。 | ・ 「このふねは～をつんでいます。」が船の「つ くり」であり、「～します。」が「できること」 であることに気づき、客船やフェリーボートと 同じように大事なことばを見つけられるよう にする。 |
| | 6 | ○ 消防艇について書 かれていることを読 み、まとめる。 | ・ これまで学習したことをもとに、基本の文型 を確認しながら「役目」「つくり」「できること」 をまとめる。 |
| Ⅲ 次 | 7 | ○ 紹介したい乗り物を 選ぶ。 | ・ 本を手に取りながら、調べたい乗り物を選ぶ 時間を確保する。 |
| | 8 | ○ 紹介したい乗り物に ついて調べたことを メモする。 | ・ それぞれの乗り物の「役目」「つくり」「でき ること」を見つけられるよう支援する。 |
| | 9 | ○ 調べた乗り物を「のり ものカード」にまとめ る。 | ・ メモをもとに、紹介したい乗り物についてま とめられるようにする。 |
| | 10 | ○ 完成した「のりものカ ード」を読みあう。 | ・ 友だちの「のりものカード」を 読んで、感想や意見を伝え 合う時間を作る。  |

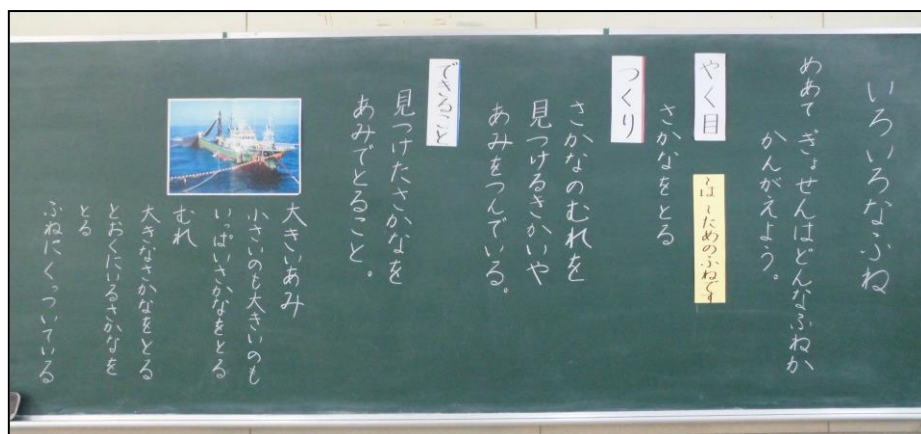
6. 本時の学習

① 本時の目標

- ・ 漁船の「役目」「つくり」「できること」について、読むことができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|--|--|
| 1. 本時の課題を確認する。 | ▼ のりものカードを使い、前時の学習を振り返るようにする。 ▼ 本時の課題を板書し、全員で読んで確かめる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ぎょせんはどんなふねかかんがえよう。 </div> | |
| 2. 教材文を読む。 | ○ 何のための船と書かれているか探しながら読みましょう。 |
| 3. 漁船について書かれていることを読み、漁船の「つくり」は何か考える。 | ★ 漁船の「つくり」は何でしょう。 ▼ 「つくり」の文型が変わっていることに気づけるよう、これまでの文型を掲示しておく。 ◎ 教科書の写真も参考に、ペアで交流しながら考えるようにする。 |
| 4. 漁船の「できること」を確認する。 | ▼ 漁船の「つくり」を使ってできることは何か確かめるようにする。 |
| 5. 学習を振り返り、漁船について「のりものカード」にまとめる。 | ○ 漁船の「役目」「つくり」「できること」を振り返り、カードにまとめましょう。 {評価} ・ 漁船の「役目」「つくり」「できること」について、読むことができたか。 |



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

自分の考えを深めるために、ペアトーク等の話しあう活動に取り組んだ。一年生にとっては初めての取り組みなので、「見せあう」「教えっこする」ことから活動を広げていった。

また学習したことを、読み取りの際のヒントとなるように、壁面に掲示した。

関連読書につなげるために「のりものの本コーナー」を作り、興味をもった本をすぐ手にとれるようにした。

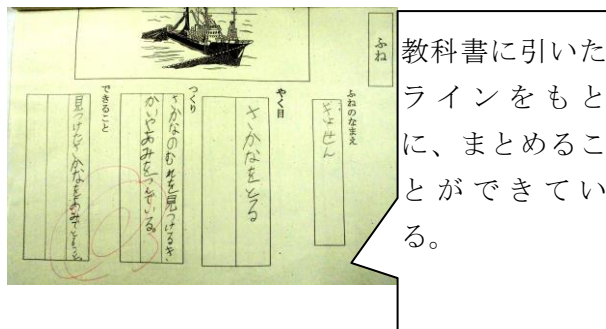
(2) 本単元の考察

主体的に学ぶために、第Ⅲ次で好きな乗り物について調べたことを知らせ、意欲を持って取り組めるようにした。また、教材文を学習する際に、色分けしてラインを引くようにした。それによって、第Ⅲ次の自分が調べたい乗り物の「やくめ」「つくり」「できること」を本の中から読み取り、まとめることができた。

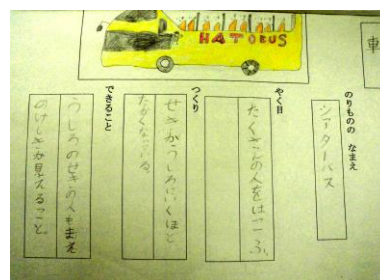
また、ペアでラインを引いた箇所を確かめあったり、全体で自分の経験を話しあったりすることで理解が深まり、「やくめ」「つくり」「できること」を捉えやすくなった。ただ、「つくり」という言葉が児童には理解しにくかったので、これに代わるような言葉を模索したい。

乗り物のことを調べ、カードにまとめる活動によって、児童は調べるために本を選んだり、読んだりすることができるようになった。

<第Ⅱ次でまとめたもの>



<第Ⅲ次でまとめたもの>



自分で選んだ本を読んで、「やくめ」「つくり」「できること」をまとめることができています。

8. 成果と課題

- 前時までの学習を教室に掲示することで、本時の読み取りに役立てることができた。
- 全体場で自分の思いや生活経験を交流することで、理解を深めることができた。
- 単元全体を通して、ワークシートが言語活動「のりもののブックをつくろう」に沿った形式だったので、Ⅲ次のすきなりのりもののカードをつくる場では、進んで取り組むことができた。
- ▲ 教科書の写真だけでは不十分なところがあったので、子どもにもわかりやすい写真や映像を用意することが必要。
- ▲ 一問一答にならないよう、多様な考えが出るような発問を工夫する。

第2学年 「名前を見てちょうだい」

指導者 井田 雄太

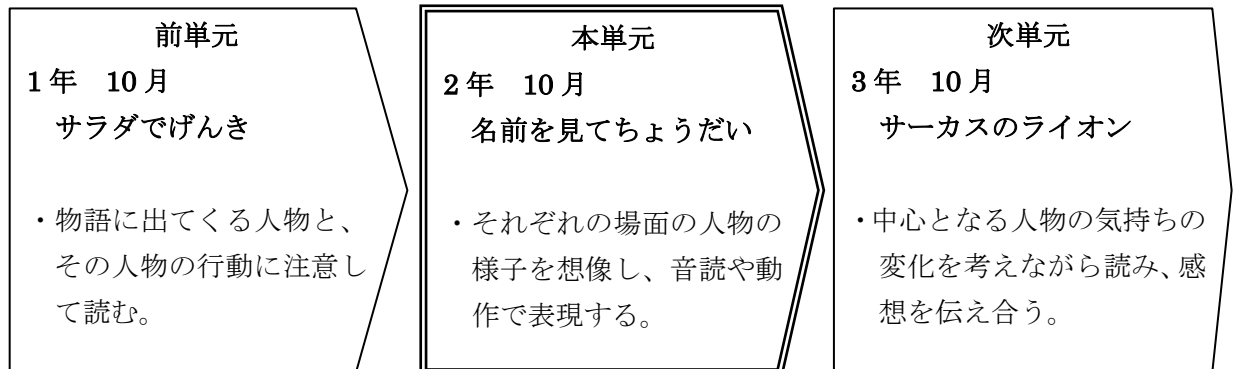
日 時 平成27年10月28日(水) 第5校時(13:45～14:30)

学年・組 第2学年1組(在籍36名)

場 所 2年1組教室

単 元 それぞれの場面の人物の様子を音読や動作で表し、想像を広げながら読もう。
(「名前を見てちょうだい」 あまんきみこ 東京書籍 2年下)

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- それぞれの場面の人物の様子を音読や動作で表し、想像を広げながら読むことができる。
 - ・ 場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。
 - ・ 文章の中の言葉をもとに、思い浮かべた人物の様子を音読や動作で表現している。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|--|--|--|
| ・人物の様子を音読や動作で表現することに興味を持ち、物語を読もうとしている。 | ・場面の様子について、人物の行動を中心に想像を広げながら読んでいる。 ・文章の中の言葉をもとに、思い浮かべた人物の様子を音読や動作で表現している。 | ・「ことば」欄の言葉を使い、語と語の続き方を考えて文を書いている。 ・「誰が」「どうした」に気をつけて、文章を読んでいる。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、読書タイムや図書の時間、絵本の読み聞かせなどを通して、本や文章を楽しく読む経験を積み重ねてきており、物語を読むこと自体の楽しさを味わうことができるようになってきている。

2年生の1学期には「お手紙」の学習で、物語の「場面」や「人物」について知り、場面ごとに人物のしたことやその時の様子や気持ちを想像しながら読む学習を行っている。この学習を通して、児童は場面について知り、登場人物の行動を中心に想像を広げながら物語を読むことができるようになってきているがまだ想像を広げるには至らない児童もいる。また、「お手紙」では、場面の様子を比べてその時の気持ちを想像し、登場人物の心情の変化をわかりやすくするため動作化にも取り組んだ。動作化に取り組むことにより、児童は動作や声の大きさなどを意識し、とても意欲的に登場人物の場面ごとの気持ちの変化を読むことができるようになってきた。しかし、発表に対しての児童の感想は、「声の大きさが良かった。」「ゆっくり、はっきり読むことができていた。」など音読の仕方についての意見が多く、気持ちの表現について述べる児童は少なかった。また、みんなの前での発表となると恥ずかしがり、心情の変化を動作や声では上手く表現できない児童も多く見受けられた。

本単元では、登場人物の気持ちを読むことを意識しながら進めるようにしたい。また、自信を持って発表できなかった児童も自信を持って発表ができるよう、ペアで動作を見せ合い、相手の良かった部分を認め合うようにしたい。

【単元観】

本単元では、付けたい言語の力を「C 読むこと」の指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」とする。本単元では、人物の様子を思い浮かべて音読や動作で表現する言語活動を設定した。文章を読む中で、想像したことを自分の表現に生かすためには、出来事の展開を追うだけでなく、そのときの人物の様子や気持ちをより具体的に想像することが必要となる。それぞれの人物になったつもりで音読し、動作化させる中で、児童の読みを深めるようにしたい。

本教材は、場所の変化とえっちゃんが新たに出会う人物に着目することにより、場面の移り変わりを把握しやすい物語である。新たな人物が登場するたびに、えっちゃんと人物のやりとりが繰り返されるため、児童は展開を楽しみながら場面の様子について豊かに想像を広げて読むことができると考える。また、会話文や登場人物の動きが多いことから、動作化に適しているため、動作を交えて音読で表現することで、楽しみながら読みを深めることもできる。

物語の展開に即して場面の様子の変化をとらえ、人物の行動や気持ちを豊かに読む能力を育てることを目指して、本単元を設定した。

【指導観】

第Ⅰ次では、学習の最後には発表会をすることを知らせ、児童が音読や動作で表したいと思うところを考えながら全文を通読するようにし、学習意欲を高めたい。その後、

第一次感想を交流する。この時に人物の様子や行動、会話を具体的に挙げ興味を持った理由を紹介するようにしたい。その上で、これから学習していく課題を提示し、音読や動作で表すために、人物の行動や様子に着目して読んでいくことを確かめ、学習の見通しを持てるようにしたい。第2時の場面分けでは、「お手紙」を振り返り、場所、人物に気をつけて場面を分ける。

第Ⅱ次では、えっちゃん、きつね、牛、大男の様子や気持ちを想像し、それを音読や動作で表現していく。その上で、えっちゃんの帽子に対する強い気持ちは、ほかの登場人物とは大きな違いがあることをしっかりと押さえながら進めていきたい。また、それぞれの場面で繰り返し出てくる言葉や登場人物の気持ちが強くわかる言葉に注目し、音読や動作で表現できるようにしたい。音読や動作で表現する際には、児童が積極的に自分の考えを表現できるよう、吹き出しに登場人物の気持ちを想像して書き、それを友だちと交流する時間を大切にしたい。

第Ⅲ次では、「名前を見てちょうだい」を読んで想像したことをもとに、人物の様子を音読や動作で表現する発表会を行う。ここでは、グループごとに声の大きさや読む速さ、間の取り方、動きなどを工夫することを確かめ、互いの良さを見つけ合いながら練習を進められるようにしたい。最後に自分の発表についての感想を述べたり、ほかのグループの発表の良かったところを伝えたり、活発に交流をし、人物の様子や行動を想像を広げながら読む力を付けるようにしたい。

5. 学習指導計画（全10時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|---------|---|--------------------------------------|---|
| I 次 | 1 | ○ 教材文を通読し、第一次感想を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習の最後には、音読発表会をすることを知らせる。 教材文を読んで、音読発表会で読んでみたいと思ったところを中心に第一次感想を書くようにする。 |
| | 2 | ○ 第一次感想を交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> 人物の様子や会話を具体的に挙げ、興味を持った理由を紹介するようにする。 |
| II 次 | 3 | ○ 第一場面、第二場面のえっちゃんの様子や気持ちを想像し、工夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> えっちゃんにとって、とても大事な帽子であることをつかませる。 音読や動作で表すことで、帽子をもらって喜んでいるえっちゃんの気持ちを想像する。 |
| | 4 | ○ 第三場面のえっちゃんときつねの様子や気持ちを想像し、工 | <ul style="list-style-type: none"> 音読や動作で表すことで、きつねの気取ってすました様子とそれに対するえっちゃんのまっすぐな態度を対比するようにする。 |

| | | | |
|----------|---|--|---|
| | | 夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「へんねえ。」に続く言葉を吹き出しに書かせることで、ぼうしの名前がきつねの名前に変わり、納得のいかないえっちゃんの気持ちを想像する。 |
| | 5 | ○ 第四場面のえっちゃんときつね、牛の様子や気持ちを想像し、工夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛ののんびりした様子とそれに対するえっちゃんのまっすぐな態度を音読や動作を通して対比するようにする。 ・ きつねの場合と同様の表現が繰り返されていることに気付くようにする。 ・ 「へんねえ。」に続く言葉を吹き出しに書かせることで帽子の名前が牛の名前に変わり、戸惑うえっちゃんときつねの気持ちを想像する。 |
| | 6 | ○ 第五場面の大男と出会った時のえっちゃんたちの様子や気持ちを想像し、工夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大男の様子がわかる言葉を見つけて、大男の巨大さや恐ろしさなどを捉えるようにする。 ・ きつねや牛の場面で繰り返されてきた表現が、ここで大きく変化していることを押さえる。 |
| | 7 | ○ 第五場面の大男と立ち向かうえっちゃんの様子や気持ちを想像し、工夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読や動作で表し前時までのきつねや牛の様子とここでの様子の変化を読むようにする。 ・ えっちゃんの気持ちや様子がわかる言葉を見つめるようにする。 ・ えっちゃんになったつもりで音読や動作をし、気持ちを想像する。 ・ えっちゃんが大男に立ち向かう気持ちを想像し、話し合うようにする。 |
| | 8 | ○ 第五、六場面の帽子を取り戻したえっちゃんの様子や気持ちを想像し、工夫して読む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あたしのぼうし。」「う、め、だ、え、つ、こ。」「ああ。よかった。」などの表現に着目し、帽子の名前を見たえっちゃんの気持ちを想像する。 |
| III 次 | 9 | ○ 物語を読んで想像したことをもとに発表会の練習をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 声の大きさや読む速さ、間の取り方、動きなどを工夫し、グループで互いの良さを見つけ合いながら練習するようにする。 |

| | | | |
|--|----|------------------------------|---|
| | 10 | ○ 練習したことをグループごとに発表し、感想を交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表するときは、工夫したところなどについて、簡単に説明してから発表するようにする。 ・ 自分の発表についての感想を述べたり、ほかのグループの発表の良かったところを伝えたりするなど交流する時間を多く取るようにする。 |
|--|----|------------------------------|---|

6. 本時の学習

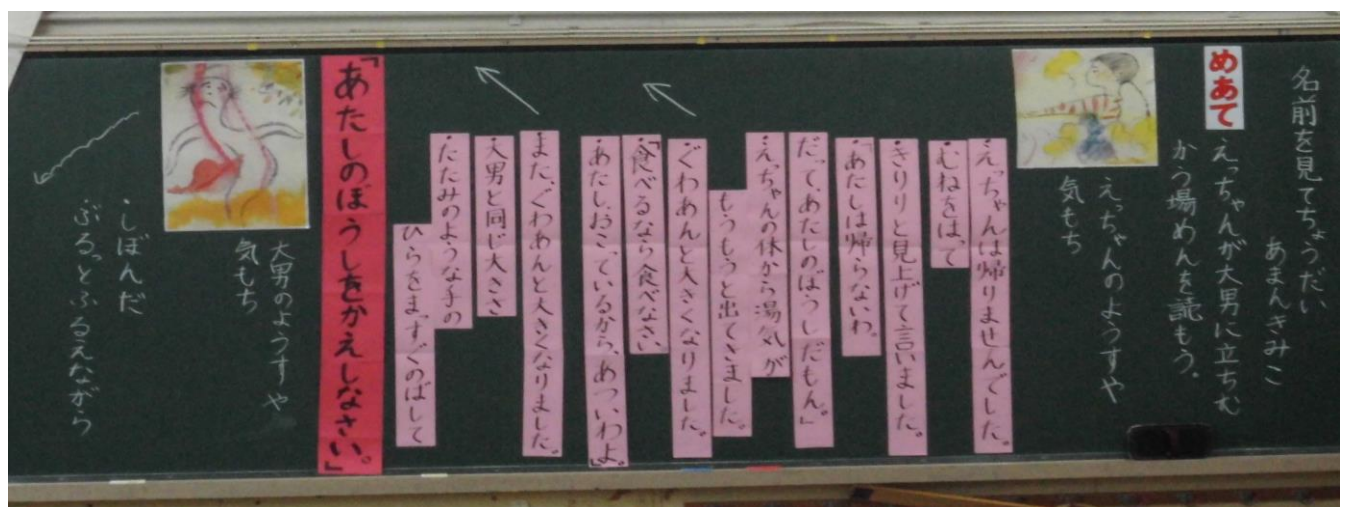
① 本時の目標

- ・ 人物の様子を声や動きで表すことで、人物の気持ちを想像することができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|---|--|
| 1. 本時のめあてを確認する。 | ▼ 本時のめあてを板書し、全員で読んで確かめる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">えっちゃんが大男に立ちむかう場めんを読もう。</div> | |
| 2. えっちゃんの様子や気持ちを想像しながら音読する。 | ○ えっちゃんが大男に立ち向かう場面を読みましょ う。 ○ えっちゃんの様子や気持ちが分かる言葉に気をつけ て読むようにしましょう。 |
| 3. えっちゃんの様子がわかる言葉に線を引く。 | ○ えっちゃんの様子がわかる言葉に線を引きましょ う。 ▼ 「湯気がもうもうと」「ぐわあんと大きく」「あつい わよ。」「たたみのような手のひらをまっすぐのぼし て」などの表現に着目するようにする。 |
| 4. えっちゃんの気持ちを音読や動作で表す。 ・ ペアで ・ 全体で | ★ えっちゃんはどうな様子でしたか。 ○ えっちゃんの様子を音読や動作で表しましょう。 ○ 音読や動作で表現するように促す。 ○ 自分の考えた動作を交流し合う。 ▼ ペアでの交流では、友だちの良かったところも伝え 合うようにする。 ▼ なぜそのような表現になったのか交流するように する。 ▼ えっちゃん和大男の様子の違いを読むようにする。 |

| | |
|---|--|
| <p>5. えっちゃんは何で逃げなかったのか吹き出しに書く。</p> <p>6. 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p> | <p>○ えっちゃんは何で逃げなかったのか吹き出しに書くようにしましょう。</p> <p>▼ 話し合ったことを元にしてえっちゃんの気持ちを書くようにする。</p> <p>▼ 次時は、帽子を取り戻したえっちゃんの気持ちを読むことを予告する。</p> <p>{評価}</p> <ul style="list-style-type: none"> 人物の様子を音読や動作であらわすことにより、えっちゃんの気持ちを想像し、読むことができたか。 |
|---|--|



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

2年生では、1学期から物語の「場面」や「人物」について知り、場面ごとに人物のしたことやその時の様子や気持ちを想像しながら読む学習を行ってきた。この学習を通して、児童は場面の变化に気づき、登場人物の行動を中心に想像を広げながら物語を読むことができるようになってきた。また、場面の様子や登場人物の心情の変化をわかりやすくするため動作化にも取り組んだ。動作化に取り組むことにより、児童は動作や声の大きさなどを意識し、とても意欲的に登場人物の場面ごとの気持ちの変化を読むことができるようになってきた。



(2) 本単元の考察

○主体的に学ぶために

児童が主体的に学ぶことができるよう、本単元では場面ごとの登場人物の気持ちを読む際、動作化に取り組んだ。なかなか積極的に学習に取り組むことができない児童も動作化を取り入れ、グループごとに発表することで表現することに対して積極的になり、登場人物の気持ちの強さを上手に読むことができた。



<第二次の話し合いの様子>



○「あたしのぼうしをかえしなさい。」の読み方について。

- ・太字だから一番大きな声で読む。
- ・太字になっているから一番怒っている感じで読む。
- ・お母さんに作ってもらった大事な帽子だからとても返してほしい気持ちで読む。
- ・湯気がもうもうと出てきて、一番大きくなって、太い字で書いてるから、だんだん怒りが大きくなってきた感じで読む。

8. 成果と課題

- 登場人物の気持ちがわかるところにラインを引くことにより、気持ちの部分に着目することができた。
- 動作化に取り組むことにより、場面の様子や登場人物の気持ちを読むことができた。
- ▲ 児童が表現したことをなぜそのような表現になったのかももう少し時間をとって確認できればよかった。

第3学年 「人をつつむ形-世界の家めぐり」

指導者 青木 祐樹

日 時 平成27年12月9日(水) 第5校時(13:45~14:30)

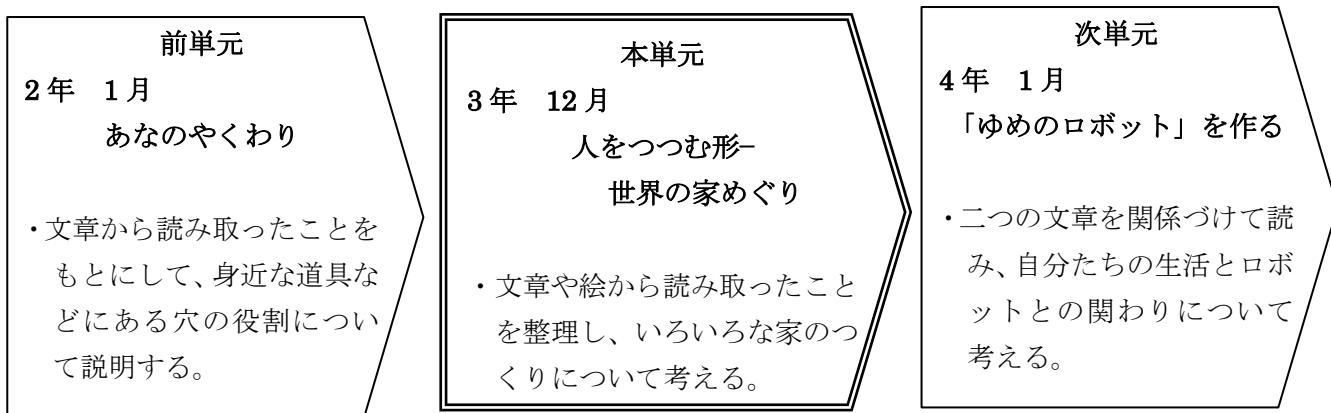
学年・組 第3学年3組 (在籍34名)

場 所 3年3組教室

単 元 リポーターになって世界の家を紹介しよう。

(「人をつつむ形-世界の家めぐり」小松義夫 東京書籍 3年下)

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- 文章や絵などから読み取ったことを整理し、いろいろな家のつくりについて調べたことを紹介することができる。
- ・段落ごとに書かれている内容をとらえ、家のつくりと気候やくらしを関連付けながら読むことができる。
 - ・興味を持った家のつくりについて書かれている本から必要な情報を選び、家の工夫をまとめ、紹介することができる。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|--|--|------------------------------------|
| ・家のつくりに関心を持って読み、気候やくらしとつなげて工夫されていることを考えたり、自分の知りたいことをまとめたりにすることに意欲的に取り組もうとしている。 | ・段落ごとに書かれている内容をとらえ、家のつくりと気候やくらしを関連付けながら読んでいる。 ・自分が興味を持った家のつくりについて書かれている本を読み、必要な情報を選ぶことができる。 | ・指示語や接続語が、文と文の意味の繋がりに果たす役割を理解している。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、これまで中心となる語や文に着目して内容を正しく読んだり、落相互の関係を考えたりしながら学習を進めてきた。

教材「ほけんだよりの読みくらべよう」では、文章をはじめ・中・終わりの3つに分け、二つのほけんだよりの共通点と相違点を手掛かりに、書き手が伝えたいことを考える学習をした。そして、図や表と文章との結びつきに目を向けることで、図表を用いると読み手に分かりやすく伝えられることに気づくことができた。

教材「自然のかくし絵」では、昆虫の身の隠し方について中心となる語や文に着目して段落ごとに書かれている内容を読み取ってきた。そして、毎時間の最後には、読み取ったことをもとに、ノートにまとめる活動を行った。問いや答え、事例などの文章構成を理解することで、問いに対する答えを見つけたり、内容をまとめることができるようになってきた。

しかし、問いに対する答えを書く場面では、短い文章にまとめることができず、文章をそのまま書き写す児童もまだまだ多い。それは、問いに応じた答えに必要な語や文をとらえることが難しいからだと考えられる。短くまとめるために、文章と写真や挿絵を関連づけて読むことで、内容を補いながら理解したり、必要な語や文を整理したりする力を身に付けさせたい。

【単元観】

児童の実態を受け、付けたい言語の力を「C 読むこと」の指導事項エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」及び指導事項カ「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」とする。本単元を貫く言語活動として「現地リポーターになりきって世界の家を紹介する」ことを位置付けた。「紹介する」ためには、筋道立てたり事例や根拠を挙げたりして自分の考えを分かりやすく説明する必要がある。事例や根拠を挙げるためには、さまざまな本や文章を読む必要があり、読書活動にもつなげることができる言語活動である。

本教材「人をつつむ形-世界の家めぐり」は、世界にある特徴的な家を写真や絵とともに紹介している文章である。本教材は頭括型になっていて、具体例を読んでいく際の観点が明確化しやすい。それぞれの家はその土地の特徴や人々の暮らしに合わせて、地元にある材料を使い、工夫して作られていることを、いくつもの具体例を挙げて説明している。また、どの国の家の具体例も文章だけでなく、写真や絵やその解説文、さらに脚注など、さまざまな形で表現され、家のつくりの理解を助けている。そのため、書かれている事柄を文章と絵、写真と結びつけながら読むことができやすい教材と考える。

【指導観】

第Ⅰ次では、第一次感想を書き、交流する。感想を書く際には①はじめて知ったこと、驚いたこと、②不思議に思ったこと、調べてみたいこと、などの視点を提示する。学習の見通しを立てる際には、「世界の家おもしろブック」の見本を見せ、興味づけを図りたい。また、並行読書につなげるために、世界の家に関する本を学級文庫に予め用意し、いつで

も読めるように学習の環境を整えておくことで、意欲を高めたい。

第Ⅱ次では、文章だけでなく、写真や絵、解説文などの情報を関連付けながら読み進めていく。そして毎時間のまとめとして、読み取った家のつくりの工夫について、人々のくらしや土地の特徴を理由として関連付け、現地リポーターとなって説明させる。

まず、導入部分では、土地の特徴と家の材料について書かれていることに気づかせ、家のつくりの工夫との関係性を考えさせたい。

次時からは、前時の土地の特徴、家の材料に人々のくらしを加え、観点が3つになっていることに気づかせたい。図に整理をする前に、人々のくらしには波線、家の材料には四角、土地の特徴には直線のサイドラインを教科書に引くようにする。また、写真や挿絵から読み取られることにも着目し、図に整理することで紹介文を書く際の手掛かりになると考える。毎時間のまとめには現地リポーターとなり、その国や家の紹介をすることで、他の国の家との比較や各地の家を自分との関わりでとらえていく。生活経験に結びつけて交流していくことで、より深い理解につなげていきたい。

第Ⅲ次では、今まで並行読書を行ってきた本を使って、自分で世界各地の家を選んでガイドブックを作るという活動を行う。「世界の家おもしろブック」を作る際には、Ⅱ次で学習した3つの観点を基にまとめていく。完成後の交流では、友だちと読み合い、発表しながら、世界の家を紹介する。また、家族にも紹介させることによって調べる楽しさや知識を紹介する喜びを感じることができるようしていきたい。

5. 学習指導計画（全9時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|--------|---|--------------------------|---|
| Ⅰ 次 | 1 | ○題名読みをし、全文の通読後、第一次感想を書く。 | ・題名のおもしろさや世界に対するイメージを交流する。第一次感想では、初めて知った事、驚いた事などについて書く事を知らせる。 |
| | 2 | ○第一次感想を読み、感想の交流をする。 | ・友だちの感想を知り、いろいろな感じ方の違いがあることに気づかせる。 |
| Ⅱ 次 | 3 | ○「世界の家おもしろブック」を作ることを知る。 | ・写真を手がかりに大まかな話の流れをつかむことができるようにする。 |
| | 4 | ○大まかな文章構成をつかむ。 | ・「世界の家おもしろブック」の見本を提示し、見通しを持てるようにする。 |
| | 3 | ○ボリビアとルーマニアの家について考える。 | ・世界の家について書かれた本の並行読書について知らせる。 |
| | 4 | ○モンゴルの家について読み取る。 | ・ボリビアとルーマニアの家の特徴には、家の材料、土地の特徴が関連していることに気付かせる。 |
| | | | ・家の材料、土地の特徴、人々のくらしに着目し、モンゴルの人々がくらしに合わせて |

| | | | |
|--------|------------------|--|--|
| Ⅱ 次 | 5 本 時 6 | <p>○チュニジアの家について読み取る。</p> <p>○セネガルの家について読み取る。</p> | <p>家のつくりを工夫していることに気づかせる。</p> <p>・3つの観点に着目し、チュニジアの人々が土地の特徴(気候)に合わせて家のつくりを工夫していることに気づかせる。</p> <p>・3つの観点について着目し、セネガルの人々が土地の特徴に合わせて家のつくりを工夫していることに気づかせる。</p> |
| Ⅲ 次 | 7 8 9 | <p>○紹介したい世界の家を選び、「世界の家おもしろブック」を作る。</p> <p>○「世界の家おもしろブック」を発表し、交流する。</p> | <p>・図鑑や本から、家の材料、土地の特徴、人々のくらしを見つけ、まとめられるよう支援する。</p> <p>・自分が調べた家と友達が発表した家の共通点や相違点を考えながら聞くようにする。</p> <p>・家族にも世界の家のことを紹介することを伝える。</p> |

6. 本時の学習

① 本時の目標

- ・チュニジアの家のつくりについて、文章や写真などから、「家の材料」「土地の特徴」「人々のくらし」を読み取り、関連付けてまとめることができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|--|--|
| 1. 本時の課題を確認する。 | <p>▼本時の課題を板書し、全員で読んで確かめる。</p> <p>▼既習の国について振り返り、観点を明確にする。</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">チュニジアの家のつくりについて読もう。</div> | |
| 2. 音読する ・チュニジアの家のつくりについて音読する。 | ○「家の材料」「土地の特徴」「人々のくらし」が分かるところを探しながら、音読しましょう。 |
| 3. チュニジアの家のつくりを3つの観点から読み取って発表する。 | ○「家の材料」は四角、「土地の特徴」は直線、「人々のくらし」には波線のサイドラインを引きましょう。 |

| | |
|---|--|
| <p>4. チュニジアの家の紹介文を書く。</p> <p>5. チュニジアの家について紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア交流 ・全体交流 <p>6. まとめを交流する。</p> | <p>▼教科書以外の写真を見せ、具体的なイメージをもたせる。</p> <p>▼文章だけでなく写真からも読み取らせる。</p> <p>▼50度や0度など日本との違いを考えさせる。</p> <p>★チュニジアの家のつくりにはどんな工夫がされていますか。</p> <p>★どうしてそんな工夫がされているんですか。</p> <p>○「家の材料」「土地の特徴」「人々の暮らし」を振り返りチュニジアの家についてまとめましょう。</p> <p>▼自分の紹介文と友達の紹介文を比べながら聞くようにする。</p> <p>▼自分の家との違いを考えながら本時の学習を振り返るようにする。</p> <p>{評価}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チュニジアの家の工夫と3つの観点を関連づけてまとめることができたか。 |
|---|--|



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

学習に対する興味付けを図るために、世界の家や生活の様子の写真を補足として見せたり、第三次で作る「世界の家おもしろブック」の見本を見せて、見通しを持たせたりしながら学習活動を展開するようにした。どのように授業を進めれば、児童の思考が止まらないのかを考え、「土地のとくちょう」「人々の暮らし」「家の材料」の3つの観点から家の工夫を考えさせるようにした。

また、毎時間のまとめには現地リポーターとなり、その国や家の紹介をする活動を行った。そうすることで、他の国の家との比較や各地の家を自分の生活経験に結びつけて交流



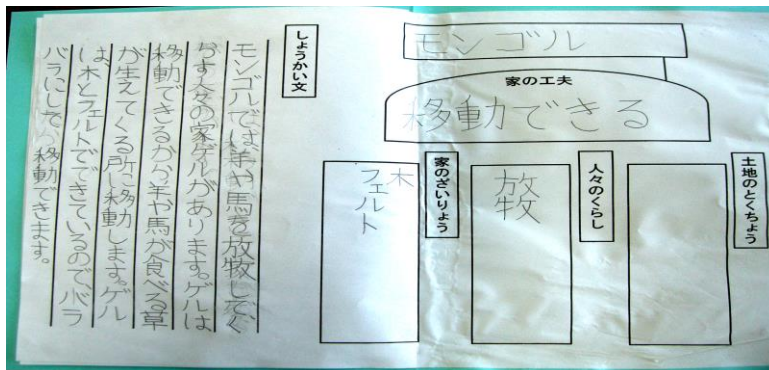
していくことができ、より深い理解につなげることができた。

(2) 本単元の考察

学年当初より大事な言葉に着目させ、線を引かせる活動を行ってきた。これにより、必要な語句を見つけること自体はできるようになってきている。本単元では、教材をより深く読み進めるために、「家の材料」「土地の特徴」「人々の暮らし」の3つの観点に着目させ、サイドラインを引きながら学習を進めた。また毎時間のまとめには現地リポーターとなり、その国や家の紹介をすることで、他の国の家との比較や各地の家を自分との関わりでとらえることができた。しかし必要なことを書き写すだけでなく、自分なりにまとめて自分の意見を書くことが必要であると感じた。

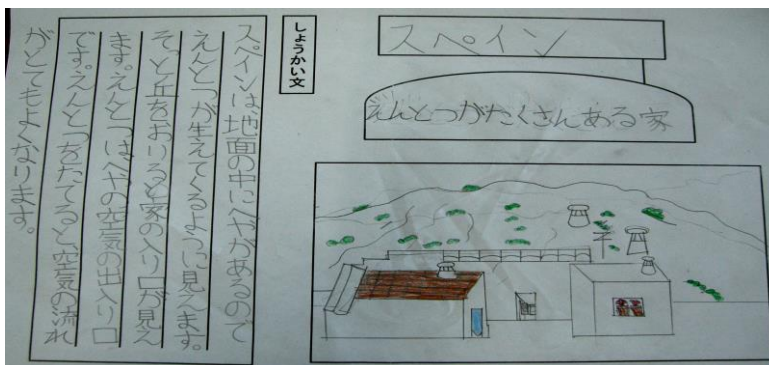
第Ⅲ次では、今まで並行読書を行ってきた本を使って、世界各地の家から自分で選んでガイドブックを作るという活動を行った。完成後の交流では、友だちと読み合い、発表しながら、世界の家を紹介する活動を行った。紹介をさせることによって調べる楽しさや知識を紹介する喜びを感じることで、児童も意欲的に取り組むことができた。

<第Ⅱ次でまとめたもの>



3つの観点に着目しながら、自分が紹介したい家の工夫をまとめることができています。

<第Ⅲ次でまとめたもの>



自分が紹介したい国の家の工夫を資料から探し、必要な観点を見つけてまとめることができています。

8. 成果と課題

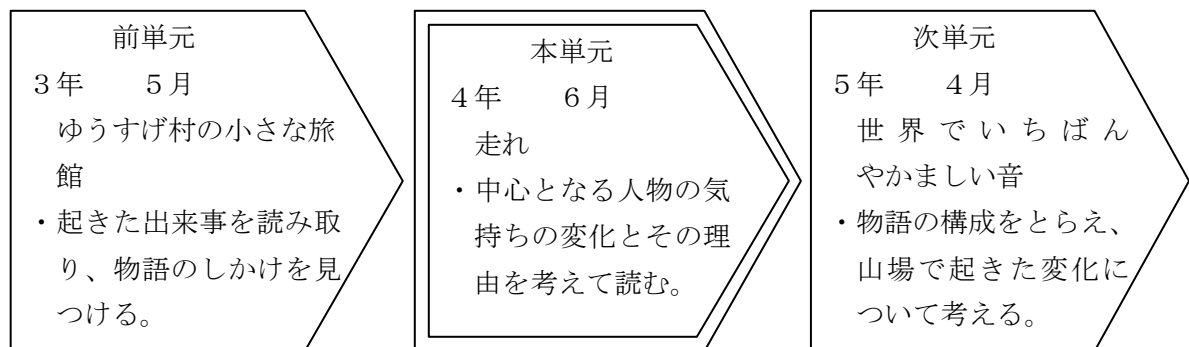
- 読み取ったことを整理し、調べたことを紹介することができた。
- 必要な情報を探して本を読む児童が増えた。
- ▲ 子供の思考にあったワークシートの工夫を探る。

第4学年 「走れ」

指導者 井辺 政夫

日 時 平成27年7月3日（金）第5校時（13：45～14：30）
 学年・組 第4学年3組（在籍33名）
 場 所 4年3組教室
 単 元 中心となる人物の気持ちの変化とその理由について考えて読み、感想を伝え合おう。（「走れ」 村中 李衣 東京書籍 4年上）

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について読み取り、自分の言葉で表現することができる。
- 本文の叙述に即して、中心人物の心内語を考え、書くことができる。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|--|---|--|
| ・物語を読むことに興味を持ち、中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。 | ・本文中の言葉をもとに、中心となる人物の気持ちの変化とその理由を想像して読んでいる。 ・人物の気持ちの変化やその理由について話し合い、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づいている。 | ・物語を読んだ感想を理由や例を挙げながら書いている。 ・慣用句の意味を理解し、短い文を書いている。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

児童は、3年「サーカスのライオン」では、場面ごとに登場人物とじんざの気持ちを考えるよう学習した。さらに、4年「こわれた千の楽器」で、読み取った場面の様子や人物の気持ちが伝わるよう音読に取り組んだ。しかし、会話文を中心に登場人物の心情に迫ることができなかった。学年では、その手立てとして、いろいろな読み物を朝の会では音読を、終わりの会では黙読をした後、終わりの会の時には、気持ちやあらすじを自分の言葉で伝えられるように取り組んでいる。けれども、自分の考えの理由をはっきり伝えたり、聞き合ったりすることに弱さが見られる。これらのことは、文から重要な言葉を見つけて、その叙述を根拠に登場人物の心情を読み取ることがまだ十分育っていないと考える。

【単元観】

つけたい言語の力を小学校学習指導要領・国語の第3学年及び第4学年「C読むこと」の指導事項「ウ場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと」と指導事項「オ文章を読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気づくこと」とする。

その際、「C読むこと」の言語活動例「ア物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を具体化した「中心人物の気持ちの変化をとらえたうえで、中心人物になったつもりで吹き出しや心の声（心内語）を書く。」という言語活動を位置付ける。

本教材は、登場人物の心情を表す言葉が数多く書かれていることが特徴である。そして、中心人物ののぶよの視点から出来事が描かれているので、心情の変化も読み取りやすい教材である。ここで取り上げる「吹き出し」は、物語全体をとらえたうえで、「中心人物の気持ちを想像し、変化した理由を添えて考える。」というものである。

本教材でねらう「中心人物に着目して、叙述をもとに人物像や対人物との関わりを考え、中心人物の気持ちの変化を読む能力」や「物語全体をとらえたうえで、中心人物の気持ちを想像して自分の言葉で表現する能力」の育成に確実につながる言語活動である。

【指導観】

第Ⅰ次では、登場人物の気持ちや自分の体験にもとづいた第一次感想を書く。

第Ⅱ次では、登場人物、中心人物、対人物を考え、3つの場面に分けて構成をとらえる。場面ごとに登場人物の気持ちの分かる表現に着目し、人物の心情を考える手立てとして「吹き出し」に心の声を書くことによって学習課題に迫ることができると考える。中心人物ののぶよの立場から、けんじ、お母ちゃんに対する気持ちや人物の関係を読み取る。クライマックス場面では、中心人物であるのぶよの心情が分かる表現を探し、マイナスの気持ちは青色で、プラスの気持ちは赤色でサイドラインを引かせることで、変わったのはどこかをとらえさせたい。また、中心人物に影響を与えた対人物はだれか、変わったきっかけは何かを考えさせることで、なぜ変化したかを読み取らせたい。

本時では、中心となる人物の気持ちがどのように、なぜ変わったのかを考えて読むようにさせたい。

第Ⅲ次では、他の物語文を読んで、中心人物の気持ちの変化を読み取り紹介し合う活動

を取り組ませる。

5. 学習指導計画（全10時間）

| 次 | 時 | 学 習 活 動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|--------|--------------------------------------|---|---|
| I 次 | 1 | <p>○ 教科書P49の扉を読み、物語について想像し、意欲を高める。</p> <p>○ 物語を通読して、中心となる人物を確認し、中心となる人物に対する第一次感想をまとめる。</p> <p>○ 学習課題について確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 中心となる人物を確認し、第一次感想を書くことができるようにする。 第一次感想の交流を通して、読みの課題を見つけることができるようにする。 |
| | 2 3 4 5 6 7 本 時 | <p>○ 場面ごとにどんな出来事があったのかを確かめ、内容の大体をとらえる。</p> <p>○ 物語に登場する人物を確かめ、中心となる人物の気持ちを想像して読む。</p> <p>○ 人物と人物の関係を確かめ、中心となる人物の気持ちを想像して読む。</p> <p>○ 中心となる人物の気持ちを想像して読む。</p> <p>○ 中心となる人物の気持ちが、どのようになぜ、変わったのかを考えて読む</p> | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの場面で起きた出来事をまとめることができるようにする。 第一場面を音読し、行動や会話などを手がかりにして、自分の言葉で人物の気持ちを書き表すことができるようにする。 第二場面を音読し、行動や会話などを手がかりにして、自分の言葉で人物の気持ちを書き表すことができるようにする。 第三場面を音読し、行動や会話などを手がかりにして、自分の言葉で人物の気持ちを書き表すことができるようにする。 のぶよの気持ちがどのようになぜ変わったのか考え話し合うことができるようにする。 のぶよの気持ちがどのようになぜ変わったのか考え話し合うことができるようにする。 |

| | | | |
|--------|----|--------------------------------------|---|
| Ⅲ 次 | 8 | ○ 中心となる人物の 気持ちの変化を中心 に、感想をまとめて | ▪ 物語の感想をまとめることができるようにする。 ▪ 感想を伝え合うことができるようにする。 |
| | 9 | 伝え合う。 | ・ 他の物語の紹介を聴き、読書に対する思いを深 めることができるようにする。 |
| | 10 | ○ 他の物語文を読ん で互いに紹介し合 う。 | |

6. 本時の学習

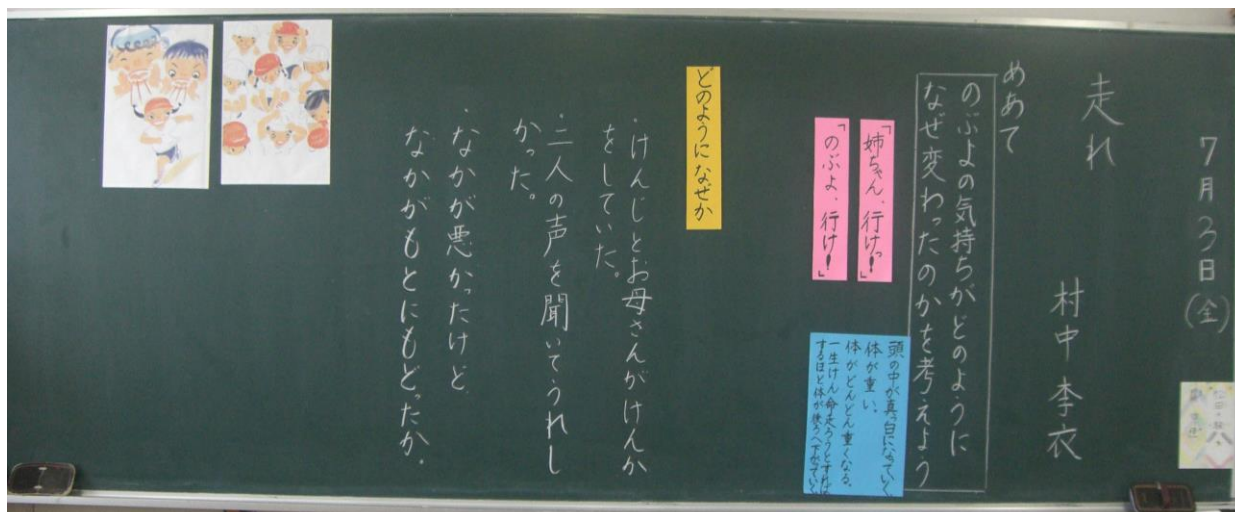
① 本時の目標

中心となる人物の気持ちが、どのようになぜ変わったのかを考えて読むことができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|---|---|
| 1. 本時のめあてを確かめる。 | ▼ 本時の課題を板書し、全員で読んで確かめる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> のぶよの気持ちがどのようになぜ変わったのかを考えよう。 </div> | |
| 2. 教材文を読む。 | ○ のぶよの気持ちがどのようになぜ変わったかをサイドラインを手がかりにして、物語を読みましょう。 |
| 3. 課題を解決する。 | |
| (1) サイドラインを手がかりにのぶよの気持ちがどのようになぜ変わったかをノート書く。 | ★ 気持ちが変わったきっかけは何かを見つけ、ノートに自分の考えを書きましょう。 ▼ 途中でペア対話をし、困っている児童には、赤色のサイドラインに注目するよう言葉かけをする。 |
| (2) 互いの考えを明確にするために、書いたことを交流し合う。 | ○ ペアで書いたことを話し合う。 |
| ・ペアで | ▼ 互いの読みについて認め合うことができるようにする。 ▼ 友だちの意見を参考に、自分の考えを書き直したり、つけ加えたりするようにしてもよいようにする。 |
| ・全体で | ○ 互いの考えを聴きあうことで考え方を広げ、課題に対する読みを深めさせる。 |

| | |
|------------------------|---|
| <p>4. 次時の学習について知る。</p> | <p>{評価}</p> <ul style="list-style-type: none"> • のぶよの気持ちがどのように、なぜ変わったのかを考えることができたか。 • 次時にみんなで話し合ったことをもとに、自分の言葉で中心人物の気持ちの変化について感想を伝え合うことを予告する。 |
|------------------------|---|



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

学年では、読み取った場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読を中心に取り組んできた。朝の会では、いろいろな読み物を一斉に音読をした結果、会話文を中心に登場人物の気持ちを考えながら、抑揚を取り入れて読めるようになってきた。また、終わりの会では、読み物を黙読した後、あらすじや登場人物の気持ちを自分の言葉で伝えられるように指導してきた。その結果、取り組む以前と比較して、文から重要な言葉を見つけて、自分の考えの理由を伝えられるようになりつつある。

本単元は、登場人物の心情を表す言葉が数多く書かれている。中心人物ののぶよの視点から描かれているので、心情の変化が読み取りやすい。物語全体をとらえたうえで、中心人物の気持ちを想像する活動をしていった。その上で、絵の「吹き出し」に主人公の気持ちを書き込むワークシートを使用することで、子どもたちは積極的に取り組むことができた。

(2) 本単元の考察

児童が主体的に学ぶために、中心となる人物を確認し、初発の感想を最後まで残して、その活用に取り組んできた。

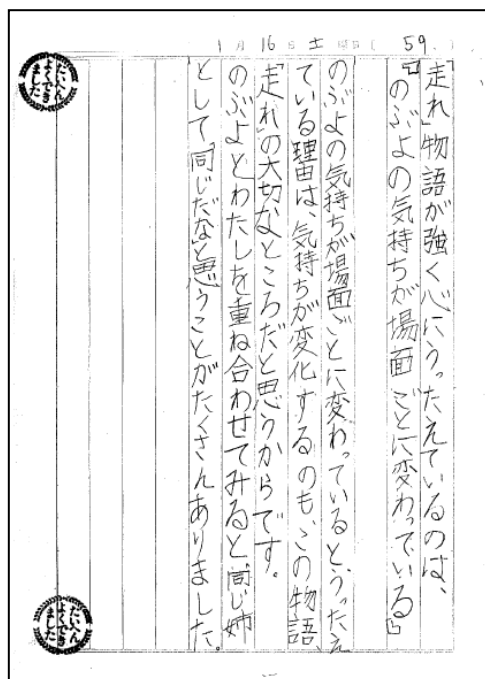
のぶよに聞いてみたいことについては、物語のポイントとなる疑問がたくさん出てきた。それを「のぶよに聞いてみたいこと」として、常時教室掲示した。これらを中心人物であるのぶよの気持ちの変化をノート1ページ分にまとめる児童も少なからずいた。

また、いつもそれらの疑問に対して、自分なりの考えを持とうとする児童もいて、これによって見通しをもって学習に取り組むことができた。

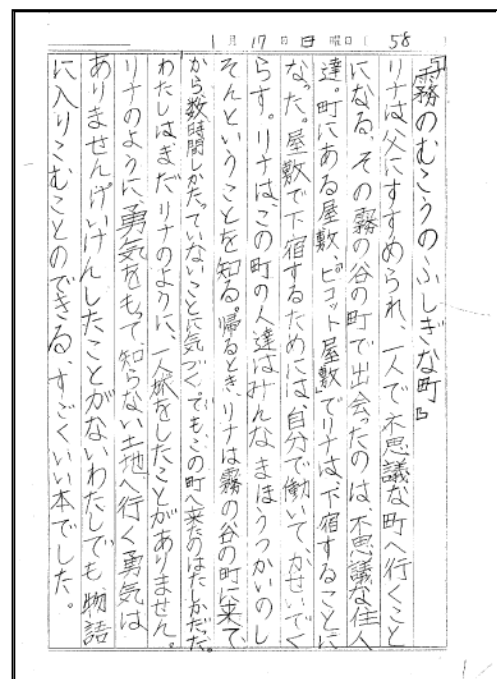
Ⅱ次では、ワークシートにのぶよの気持ちを考え、心の声を吹き出しに書くよう指導してからペア・全体交流した。友だちの考えを聞いて、自分の考えを加除修正し読みを深める児童も増えていた。

Ⅲ次では、読みたい本を選び物語が強く訴えてきたことをまとめた。自分の読みの力に応じて、本を選んだので、読書が苦手な児童も、積極的に取り組むことができた。

<第Ⅱ次でまとめたもの>



<第Ⅲ次でまとめたもの>



<第Ⅱ次でまとめたもの>は、主人公の気持ちの表現を見つけ、心に語りかけてきたことやなぜ変化しているかをまとめることができている。

また、<第Ⅲ次でまとめたもの>は、自分の選んだ物語についてあらすじを記述した上で、自分自身の体験を関連づけて、最も心に残ったことをつけ加えている。

8. 成果と課題

- 初発の感想から最終的なめあてを作り、それを解決していくという課題解決学習が展開できた。
- ペア・全体交流をすることで、自分とは異なる考えを知ることができ、読みをさらに深めることができた。
- 登場人物の気持ちの変化やポイントになる語句に注目して、音読しようとする児童が増えた。
- ▲ 自分の体験や読書の経験をもとに、自分が考えたことや思ったことを進んで発言しようとする活動支援のあり方が今後の課題になる。

第5学年 「テレビとの付き合い方」

指導者 上田 学

日 時 平成 28 年 1 月 22 日（金）第 5 校時（13：45～14：30）

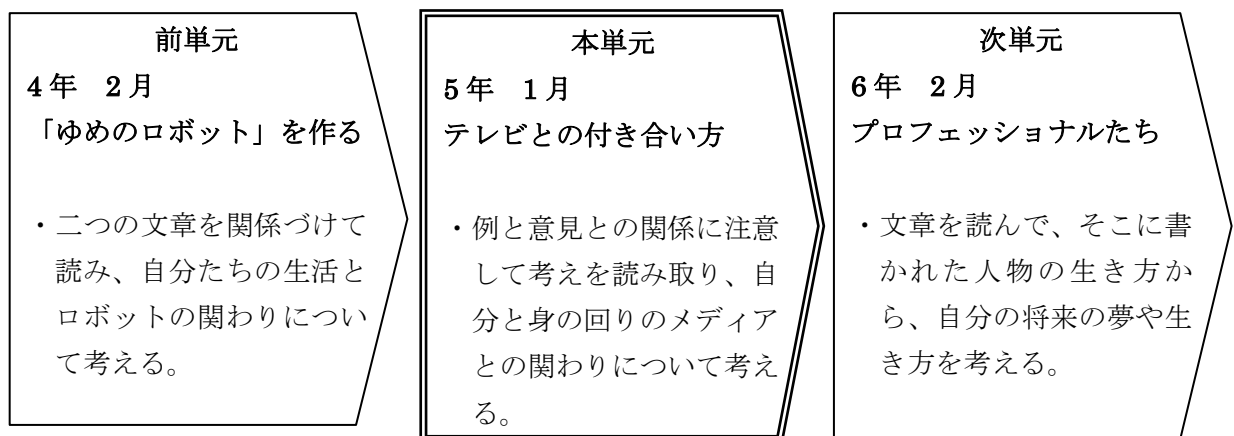
学年・組 第 5 学年 2 組（在籍 32 名）

場 所 5 年 2 組教室

単 元 わたしたちとメディアとの関わりについて意見文を書こう。

（「テレビとの付き合い方」佐藤 二雄 文 東京書籍 5 年）

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- 筆者の主張を読み取り、自分とメディアとの関わりについて意見文を書くことができる。
- ・ 筆者の意図や思考を読み取り、自分の考えを明確にすることができる。
- ・ 目的に応じて複数の資料を選んで読み、メディアと自分たちの関わり方について考えることができる。
- ・ 筆者の意見の述べ方の工夫を捉えることができる。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|---|---|----------------------------|
| ・メディアとの付き合い方に興味を持ち、進んで文章を読んで、筆者の考えを踏まえながらメディアとの付き合い方に関する自分の考えを書こうとしている。 | ・文章の要旨をとらえ、筆者の意見と例との関係などを押さえたうえで、多面的に評価しながら文章を読んでいる。 ・文章を読んだことをもとにして、身の回りのメディアについての自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ・説明的な文章における文章全体の構成を理解している。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

本学級では、ほとんどの児童が国語の学習に進んで取り組んでいる。学年当初から物語文、説明文、俳句、短歌など様々なジャンルに親しむ姿が見られた。

説明文については、これまでに6月教材「新聞記事を読み比べよう」で、2つの新聞記事を読み比べ、書き手の意図によって記事の内容や写真が変わることを学習した。また、12月教材「和の文化を受けつぐ」の学習では、自分が調べたい和の文化に合わせて関連する本を調べ、新聞記事やインターネットから集めた資料をもとにまとめ伝え合う活動をした。多くの児童が意欲的に発表することができたが、資料を写しただけで、読み取ったことを簡潔にまとめ、自分の考えを書くまでには至っていない。素直に意見を受け入れ読むことはできても、読み取った文章に対して自分の意見を表現することができていないからである。

そこで自分の意見を持つために、筆者の意図を読みとった上で、その考えに納得できるかどうか考えたり、筆者の述べ方の工夫を読みとったりする活動に重点を置き取り組みたい。そして物事を多面的に考える力を育てていきたい。

【単元観】

児童の実態を受け、つけたい言語の力を「C読むこと」の指導事項オ「文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表しあうこと」とする。この力をつけるためにわたしたちとメディアとの関わりについて意見文を書くという言葉活動を位置づけた。現代社会には、テレビ、新聞、ラジオ、パソコン、携帯電話など、様々なメディアが存在している。これらのメディアから受ける影響も大きい。このような「情報社会」において、児童は必要な情報を取捨選択したり、発信者の意図やメディアの特性を意識したりしながら、情報の価値を吟味していく力がますます重要視されている。

本教材は文章部分と資料部分の二つで構成されている。文章部分は序論、本論、結論から成り、本論は筆者の意見とそれを説明するための具体例から成っている。そこでは、テレビで放送される部分は一部であり、それが全ての情報だと誤解する例を「黒い部分」と「白い部分」の図を使って説明している。

筆者は図や具体例を用いることにより、自分の考えを読者に納得させ、より分かりやすく伝えている。ここでは、広い面積の「白い部分」の中に狭い面積の「黒い部分」を配置している長方形の図で、情報量の対比を分かりやすく示している。そして、結論では今後のテレビとの上手な付き合い方を考えてほしいという筆者の意見が述べられている。補足の資料部分では、筆者の考えを補うために写真が二枚ずつ示されている。また、筆者の意見の述べ方を使って自分の考えを説明することができるようになっており、メディアについて考え、情報の受け止め方についての意見文をまとめる学習に適した教材であると考えられる。

【指導観】

第I次では、題名読みをすることで自分とメディアとの関わりについて関心をもたせ、

自分たちの生活はメディアに依存していることを確認する。そしてメディアとの関わりについて自分の考えを交流し、学習の見通しを立てる。単元の展開として、最後に「意見文」にまとめるという見通しを持たせ、筆者の意見や述べ方の工夫について読み取る必要があることを伝える。

第Ⅱ次では、まず序論・本論・結論の文章構成であることをおさえたあとで、序論部分のグラフを読み取り、その効果について考え交流する。次に、メディアの流す情報には黒い部分と白い部分があることに着目し、あてはまる言葉にサイドラインを引いて整理していく。そして、図や具体例を用いるという筆者の考えの述べ方の工夫と、そのよさにも気づかせたい。本論を読みとる手立てとしては具体例を動画にしてみせることで筆者の論がイメージしやすいようにしたい。

本時ではまず筆者の判断を表す言葉「～のではないのでしょうか。」に着目し、読者に判断を委ねていることに気づかせる。そして、筆者の意見をふまえた上で、それに納得できるか否かという観点で理由を明確にしながら自分の考えを書いていく。書くための支援として、ワークシートを用いることで自分の考えを筋道立てて書くことができるようにしたい。また、交流の場面では、ペアやグループなどの少人数で自分の意見に自信を持たせたあと全体で話し合わせていきたい。

第Ⅲ次では様々なメディアの中から自分で選んだメディアについて「〇〇との付き合い方」という題で自分の考えを意見文にまとめる。その際、本文で学んだ表やグラフ、図などを効果的に挿入するように支援していく。さらに、自分の考えを友だちと交流することによって、身の回りのメディアについて考えを広げたり深めたりしていく。

この学習と同時に社会科の「情報を生かすわたしたち」の単元でも関連づけて学習していくことができると考える。

5. 学習指導計画（全9時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|---------|---|--|--|
| I 次 | 1 | ○題名読みをする。 ○学習の見通しを立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名読みで、メディアについての知識やメディアとの関わり方について交流し、意欲を持たせる。 ・ 「テレビとの付き合い方」を読んで、自分とメディアの関わり方についての意見文を書く、という見通しをもつようにする。 |
| II 次 | 2 | ○文章構成を確認する。 ○グラフと文章の関係について確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章全体の構成を理解することができるようにする。 ・ グラフを読み取り、その効果について考えることができるようにする。 |

| | | | |
|------------|-------------|--|---|
| | 3 | ○「黒い部分」と「白い部分」の図の意味を考え、教材文の中から「黒い部分」に対応する言葉と「白い部分」に当てはまる言葉を見つける。 | ・ 図の意味を理解し、「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉を書き出し整理することができるようにする。 |
| | 4 | ○「黒い部分」と「白い部分」を整理し、筆者の主張を読みとる。 | ・ 筆者の考えを読み取りまとめる。 |
| | 5 本 時 | ○メディアとの付き合い方に対する筆者の考えに対する自分の意見をもつ。 | ・ 筆者の考えを読みとり、筆者の意見に納得できるかどうかという観点で自分の意見を書き、交流する。 |
| | 6 | ○写真資料「黒い部分」と「白い部分」の図を使って説明する。 | ・ 筆者の考えを読み取り、図や写真を使って説明することができるようにする。 |
| Ⅲ 次 | 7 | ○自分が選んだメディアについて構成メモを作る。 | ・ 自分が選んだ内容について、図の「白い部分」と「黒い部分」に当てはまるものを考え、内容を整理する。 |
| | 8 | ○構成メモを基に、意見文をまとめる。 | ・ 筆者の述べ方の工夫を意見文に利用することができるようにする。 |
| | 9 | ○完成した意見文を紹介しあう。 | ・ 意見文を交流し、メディアとの関わりについて考えることができるようにする。 |

6. 本時の学習

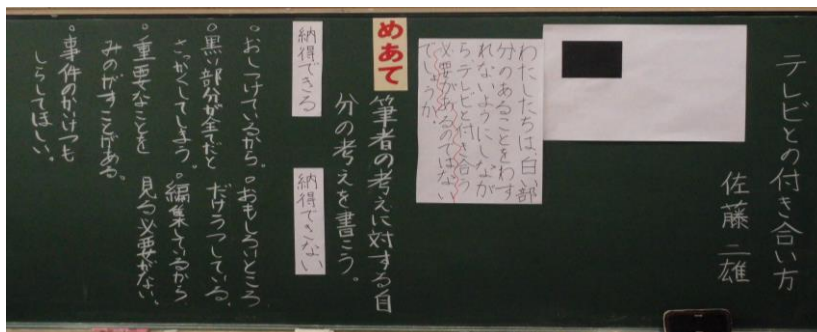
① 本時の目標

筆者の考えに対する自分の考えを書くことができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|-------------------|---|
| 1. 前時までの学習をふりかえる。 | ○前時に線を引いた「黒い部分」と「白い部分」に着目しながら音読しましょう。 ▼前時に見た動画をふりかえり、筆者の論がよりイメージしやすいようにする。 |

| | |
|----------------------------------|---|
| 2. 本時の課題を確認する。 | ▼筆者の意見の述べ方の工夫として、問いかけの形で終わっていることについて考えさせ、メディアとの関わり方を考えていくことが必要であることを押さえる。 |
| 筆者の考えに対する自分の意見を書こう。 | |
| 3. 筆者の意見に対する考えを書く。 | ○筆者の考えに対する自分の意見を書こう。 ▼自分の考えを説得力のあるものにするために、筆者の意見に対する立場を明確にした上で、その理由を書くことを確認する。 ◎具体的な例を用いて意見を書くよう助言する。 |
| 4. 自分の考えを発表する。 ・ペア交流 ・全体交流 | ▼自分の考えと友だちの考えを比べながら聞くようにする。 ▼友だちの意見を参考に、自分の意見を直したりつけ加えたりしてもよいようにする。 |
| 5. 次時の学習について知る。 | ▼次時は、写真との付き合い方について考えることを伝える。 |



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

本単元では、筆者の考えを読み取り、メディアに対する自分の考えを意見文として書く言語活動を設定した。「意見文を書く」までの見通しとして、学習課題を明らかにすることで学習を展開していった。

また、本文を学習するなかで、筆者の考えについて理解するだけでなく、その考えを多面的に考え自分の考えを深めることができるようにしたいと考えた。そこで、筆者の考えに「納得できる」「納得できない」という立場をはっきりさせて自分の考えを具体的にまとめていくことにした。

(2) 本単元の考察

子どもたちがめあてに向かって主体的に学習を進めるには、単元の出口となるⅢ次の表現活動を常に意識できることが大切だと考えた。そこでⅠ次、Ⅱ次、Ⅲ次を通して、どの

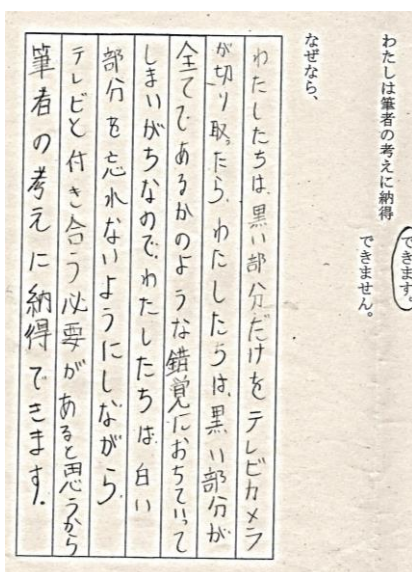
段階でも児童がⅢ次の言語活動を意識できるように単元を構想し、立てた学習計画を常掲するようにした。

導入(Ⅰ次)では題名読みでメディアについての知識やメディアとのかかわり方について意見をだし交流した。児童からは「メディアは流行の情報を得るのに使う」「テレビは毎日5時間以上見る」「インターネットはテレビより便利」等、様々な意見がでて、学級の実態を知ること「意見文」を書くことに高い関心を持つことができた。

Ⅱ次では、文章の「白い部分」「黒い部分」に着目し、「筆者のメディアに対する考え方」が読むことができた。大事な言葉や文に着目して本文中の言葉を使いながら筆者の考えに対する自分の考えを書くことができた。Ⅲ次では、自分でメディアを選び、意見文を書いたので、意欲的に取り組むことができた。また、自分の思っていることをうまく表現することのできない児童への書くための手立てとしてワークシートを取り入れることで自分の考えを論理立てて書くことができた。

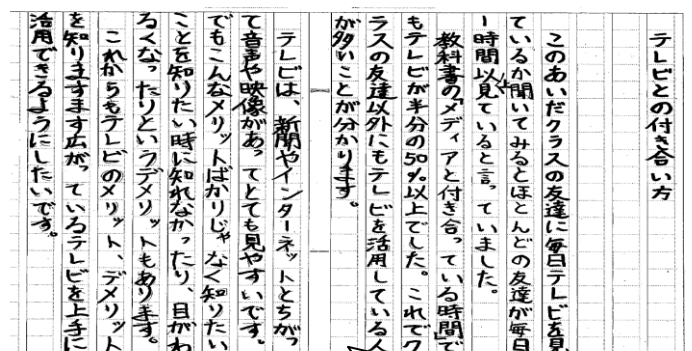
また、筆者の論をよりイメージしやすいように「白い部分」「黒い部分」を具体的な映像にして児童に見せた。しかし、白い部分と黒い部分の違いが分かりにくく、ICTを活用することが目的になっていたので、なぜICTを取り入れるのか、ICTを取り入れて児童につけたい力はなんなのかをよく考えて取り入れて行くことが大事であると感じた

<第Ⅱ次でまとめたもの>



筆者の考えに対して、「納得できる」「納得できない」という立場をはっきりさせて自分の意見をまとめることができています。

<第Ⅲ次でまとめたもの>



自分が選んだメディアについて、そのメディアの良い部分、悪い部分を考えながら、付き合い方を考えることができています。

8. 成果と課題

- 学習課題を教室に掲示することで、学習内容を振り返ることができた。
- 題名読みをすることによりメディアについて関心を持ち、意欲をもって学習に取り組むことができた。
- ▲ これまでの関連した学習を十分に活かしながら、本時の学習につなげていくべきだった。
- ▲ メディアに対する意見を、指導者側が事前にいくつか準備しておく、児童への支援が明確となるのではないかな。

第6学年 「風切るつばさ」

指導者 尾小谷 純也

日 時 平成27年6月16日（火）第5校時（13：45～14：30）

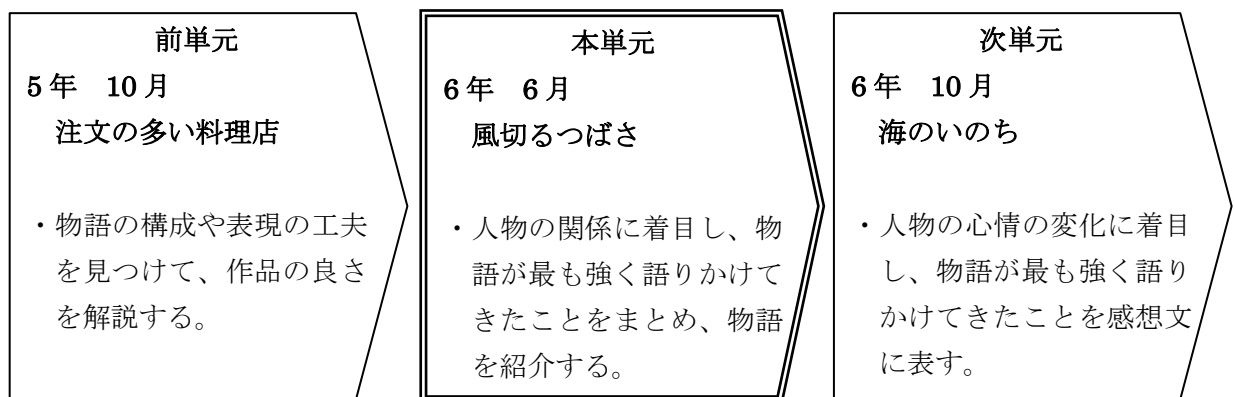
学年・組 第6学年1組（在籍31名）

場 所 6年1組教室

単 元 物語が最も強く語りかけてきたことをまとめ、物語を紹介しよう。

（「風切るつばさ」木村裕一 東京書籍 6年）

1. 教材間の関連



2. 学習目標

- 人物同士の関係や心情の変化をとらえ、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、紹介し合うことができる。
- ・ 本文の叙述や実体験などと関連付けながら、物語が最も強く語りかけてきたことについてまとめることができる。
 - ・ 物語が最も強く語りかけてきたことについて、共通点や相違点を考えながら、伝え合うことができる。

3. 評価規準

| 国語の関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語の特徴やきまりに関する事項 |
|--|--|---|
| ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、考えを伝え合うことに意欲的に取り組んでいる。 ・自分のお気に入りの本を読もうとしている。 | ・物語の山場で起きる人物の心情の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読んでいる。 ・物語が自分に最も強く語りかけてきたことを友だちと伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | ・大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が最も強く語りかけてきたことを考える手がかりとしている。 |

4. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、前学年までに、登場人物の行動や言葉、情景描写などに着目し、登場人物の心情の変化をとらえる学習をしている。4月教材「サボテンの花」では、読み取ったことをもとに一人一人が心に残った場面を選び、読み方を工夫して朗読を行った。その際、どうしてそこを選んだのかという点を大切にすることにし、「自分がサボテンの生き方に共感できる」、「風の発言内容には納得できるが、生き方としてはサボテンの方が正しいと思う」など話し合った。説明文「イースター島にはなぜ森林がないのか」でも、筆者の主張について自分の考えをまとめ伝え合う活動を行ってきた。

しかし、児童は、自分の考えをまとめることはそれなりにできるものの、まだまだ十分であるとはいえない。それは、どうしても表面的な文章の読みにとどまっているからである。物語や説明文の内容を十分に理解し、自分の考えを表現できるように支援していきたい。

【単元観】

児童の実態を受け、付けたい言語の力を「C読むこと」の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをもつこと」、指導事項オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」とする。この力をつけるために、「物語が自分に最も強く語りかけてきたことをまとめ、伝え合う」という言語活動を位置づける。

本教材は、中心となる人物の心情がほかの人物との関わりを通して大きく変容する物語である。中心となる人物の心情が心内語に多く表れており、心情の変化がとらえやすい。さらに、登場人物が限られており、それぞれの関係や行動が中心となる人物に大きく影響を与えることが分かりやすい教材文である。また、中心人物であるクルルは、仲間を信じることができなくなり、自己嫌悪に陥っていく。逆に、その仲間であるカララは、クルルを犯人扱いする仲間に、何も言えずに黙ってしまう。それぞれの思いのすれちがいである本教材の展開は、6年生の時期の子どもにも共感を得やすいのではないかと考える。以上のことから、物語の内容を十分に理解した上で、自分はどのように物語をとらえたかを表現する活動を行うのに適した教材である。

教材文を読み進めることに並行して、並行読書にも取り組ませる。同じ作者が書いた「あらしのよるに」のシリーズや、草野たき作「ハッピーノート」などは、人物と人物の関係を描いた物語である。その他にも、児童の発達段階や興味に合わせて、さまざまな本を用意する。そして、それらから、強く語りかけてきたことを伝え合う。

【指導観】

本単元に入る前に、読書環境を整える。前述の物語などを学級文庫に予め用意し、それらをいつでも手にとって読めるようにしておく。

第Ⅰ次では、初発の感想を書く。「心に残ったこと」「共感できること」「登場人物に聞いてみたいこと」などの観点を示し、初発の感想を交流する。初発の感想の中から読みの課題を設定し、学習意欲を高めるとともに、学習の見通しをもたせるようにしたい。

第Ⅱ次では、まず、「クルルが飛べなくなった理由」について考える。物語冒頭、キツネによって一羽のアネハヅルの命が失われる。クルルは、それを仲間から指摘され、「仲間殺しの犯人」のように扱われるようになる。また、仲間だと思っていたカララも、その仲間に交じっていることも、クルルに大きな影響を与えたことは児童にも容易に想像できるであろう。中にはこういった経験をした児童もいるのではないかと考える。そこで、似たような経験があるか、その時の気持ちはどうかなどを思い返しながら、クルルが飛べなくなった理由をさらに具体的に考えさせたい。この時間の最後には登場人物の相関関係について人物相関図をクラス全体で作成する。「クルル」→「群れみんな」・「カララ」は「仲間」「友だち」などの言葉で表されるだろう。逆に、「群れみんな」→「クルル」は、「仲間殺しの犯人」「いかりの持っていき場」などと表せる。

本時では、第三場面以降を全文との関連から読み進め、「クルルが飛べるようになった理由」を考える。自尊感情を失ったクルルにカララが以前と変わらず接してくれたこと、一緒にいてくれたことなどの理由も容易に想像できるであろう。前時の学習をふまえ、実体験などを交えながら考えをまとめることができるようにしたい。その上で、カララが仲間の中で黙っていたのはなぜかなどについても考えるようにする。また、本時の最後にはカララがクルルへの心情を人物相関図に書き込んでいく。これまでの話し合いから、ここは「仲間」などの言葉が当てはまるのではないかと考える。

次時には「風切るつばさ」を読んで、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを改めてまとめる。登場人物の心情が表れていると思う大事な言葉や表現、自分の体験などを根拠に、クルルの心情の変化を踏まえて、物語が最も強く語りかけてきたことをまとめていく。題名「風切るつばさ」の意味などを考えながら、児童がこの物語の感動の中心をとらえることができるようにしたい。また、それぞれの考えを互いに伝え合い、自分との違いを受け入れたり、友だちの考えの良さを認めたりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることにつなげていきたい。

第Ⅲ次では、並行読書をしていた他の作品で最も強く語りかけてきたことをまとめる。図書の時間や読書タイムなどを活用しながら並行読書を行うようにする。それぞれの人物相関図を交流することで、それぞれの読みの相違点や共通点などに気付くことができるようにしたい。

5. 学習指導計画（全7時間）

| 次 | 時 | 学習活動 | 支援のあり方（発問・助言・補説 等） |
|--------|---|--------------------------------|--|
| Ⅰ 次 | 1 | ○ 教材文を通読し、第一次感想を書く。 | ・ 教材文を読んで、心に残ったことなど第一次感想を書くようにする。 |
| | 2 | ○ 第一次感想を交流する。 ○ 学習の見通しを立てる。 | ・ それぞれの読みに違いがあることに気付くことができるようにする。 ・ 第一次感想の交流を通して、読みの課題を見つけるようにする。 |
| | 3 | ○ クルルが飛べなくなった理由を話し合 | ・ 実体験や叙述をもとにクルルが飛べなくなった理由について話し合うようにする。 |

| | | | |
|----------|---|----------------------------------|---|
| 次 | 4 | ○ クルルが飛べるようになった理由を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し合いをもとにして、人物相関図をかくようにする。 前時に作成した人物相関図や実体験、叙述をもとにして、クルルが飛べるようになった理由を話し合う。 カララのクルルへの心情は事件前後で変化していないことを押さえ、その誤解が解けたことで、飛べるようになったことをまとめることができるようにする。 |
| | 5 | ○ 物語が最も強く語りかけてきたことをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 物語が自分に最も強く語りかけてきたことを、実体験や登場人物の関係などを交えながらまとめることができるようにする。 |
| III 次 | 6 | ○ 並行読書してきた作品から、最も強く語りかけてきたことを書く。 | <ul style="list-style-type: none"> 「風切るつばさ」で書いたことをもとに、他の作品でも書くことができるようにする。 |
| | 7 | ○ 書いたことを交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> 読みの共通点や相違点を明確にするとともに、それらの視点で交流の感想をまとめるようにする。 |

6. 本時の学習

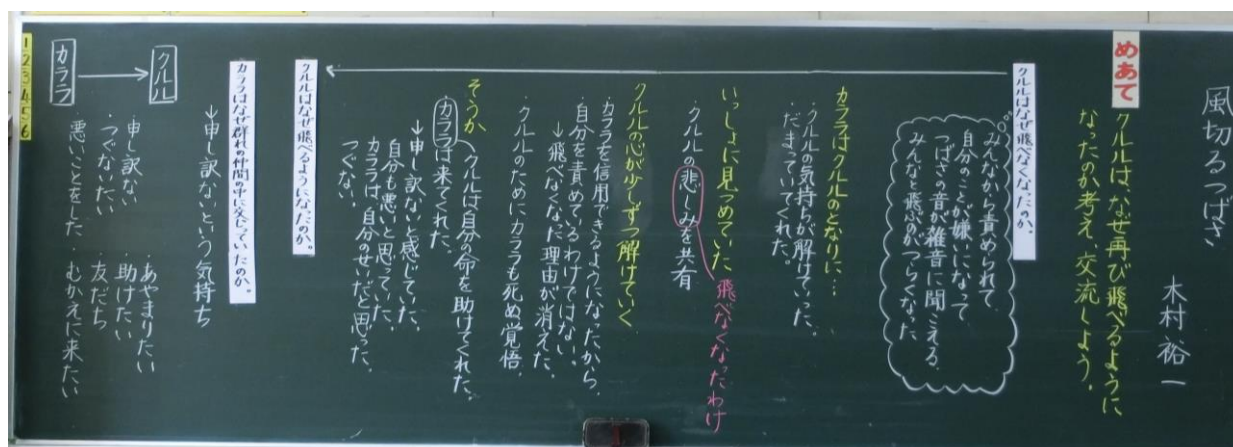
① 本時の目標

- 人物の心情が変化した理由を言動や人物相互の関係から考えることができる。

② 本時の展開

| 学習活動 | | ★発問 ◎助言 ○指示 ▼支援 |
|--|--|--|
| 1. 人物の関係を振り返る。 | | <ul style="list-style-type: none"> 前時の内容を振り返るようにする。 |
| 2. 本時の課題を確認する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ▼ 本時の課題を板書し、全員で読んで確かめる。 |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;">クルルが再び飛べるようになった理由を考え、交流しよう。</div> | | |
| 3. 教材文を読む。 | | ○ クルルが飛べるようになった理由を考えながら、物語を読みましよう。 |
| 4. クルルが再び飛べるようになった理由を考える。 | | <ul style="list-style-type: none"> ★ クルルが再び飛べるようになったのはなぜでしょうか。それが分かる本文を抜き出し、理由も書きましよう。 ▼ 実体験などをふまえながら、書くことができるようにする。 |
| 5. 互いの考えを明確にするた | | ○ ペアで書いたことを確認し合い、それに対する自分 |

| | |
|--|---|
| <p>めに、書いたことを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで ・全体で <p>6. 人物相関図に関係を書く。</p> | <p>の考えを話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 互いの読みについて認め合うことができるようにする。 ▼ 友だちの意見を参考に、自分の考えを書き直したり、つけ加えたりするようにしても良いようにする。 ▼ クルルのカララへの誤解が解けたことが大きな理由であることについて押さえる。 <p>{評価}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クルルが飛べるようになった理由についてまとめることができたか。 <p>★ カララのカルルへの心情をどうまとめればよいでしょうか。</p> <p>▼ カララのカルルへの心情は変化していないことをおさえる。</p> |
|--|---|



7. 指導を終えて

(1) 学年の取り組みについて

国語に対する苦手意識を払拭するために、初発の感想をもとに学習活動を展開するようにした。初発の感想ではどのように声かけをすれば、内容に迫る感想を書くことができるのかを考え、「心に残ったこと」「共感できること」「登場人物に聞いてみたいこと」といったもののだけでなく、「自分が登場人物だったら」という視点を設けるようにした。

また、人物の相互関係を理解させるための人物相関図をその時間の学習のまとめとして書くことで、登場人物の関係全てがクルルを飛べなくしていたということについて、視覚的にも理解できるようにした。



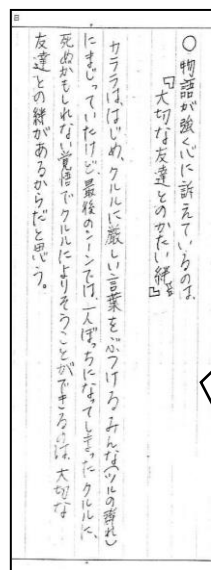
(2) 本単元の考察

主体的に学ぶために、初発の感想の活用を行った。児童から出た感想は「クルルはなぜ飛べなくなったのか」「カララはなぜ何も言い返さなかったのか」「クルルはなぜ言い返さなかったのか」「クルルが再び飛べるようになったのはなぜか」の4つに分けられた。これらを「みんなの疑問」として常に掲示し、物語を学習し終えたときには、全ての疑問に対して、自分なりの考えを持つことをめあてにして学習に取り組むことで、児童は見通しをもって学習することができた。

学年当初より取り組んできたペアトークでは、自分の考えを話すだけでなく、友だちの意見を聞いて、自分の意見を修正したり、付け加えたりする時間を確保するようにした。これにより、意見の深まりが見られた児童もいたが、読みの力に差があるペアについての支援が必要であると感じた。

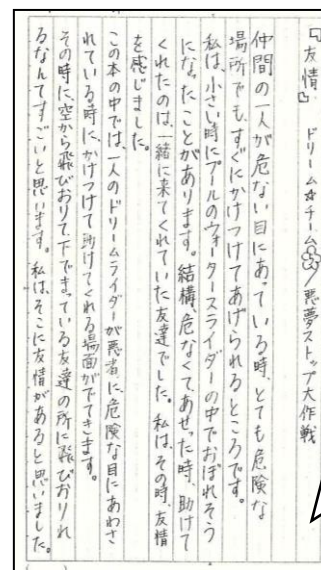
また、Ⅱ次の最後には、物語が最も強く訴えかけてきたことをまとめる活動を行った。自分なりに作品から受け取ったメッセージをまとめ、交流し合った。友だちの意見を聞くことで、自分の読みを深めることができた。Ⅲ次では、自分のお気に入りの本を選んで、物語が最も強く訴えかけてきたことをまとめた。自分の読みの力に応じて、本を選んだので、読書が苦手な児童も、意欲的に取り組むことができた。

<第Ⅱ次でまとめたもの>



あらすじを簡単に記述しながら、最も強く語りかけてきたことをまとめることができています。

<第Ⅲ次でまとめたもの>



あらすじを簡単に記述しながら、自分の経験とを結び付けて、最も強く語りかけてきたことをまとめることで、説得力が増している。

8. 成果と課題

- 初発の感想からめあてを作り、それを解決していくという課題解決学習が展開できた。
- 異なった考え、様々な視点からの読みについて、交流することができた。
- 物語の伏線に注意したり、言葉にこだわって読んだりする児童が増えた。
- ▲ 実体験や自己の読書経験から、自分の意見を述べるができるような支援のあり方を探る。

なかよし学級 「なかよしサーキット学習をしよう」

指導者 高森 文代 村上 正道
池原 ひふみ 井上 正章

日 時 平成27年12月11日（金）第2校時（9：45～10：30）
学年・組 なかよし（在籍19名の内なかよし①通級児童）
場 所 なかよし教室①②
単 元 「なかよしサーキット学習をしよう」

1. 単元目標

- ・サーキット学習のルールを守って楽しく活動する。
- ・身体を動かしたり指先を使ったりする活動に主体的に取り組む。

2. 指導にあたって

○児童の様子

なかよし学級在籍の児童は、個々の障がいや発達段階が異なり、児童の身体能力や手先の器用さもさまざまである。そのため課題も一人ひとり異なっている。それぞれの児童のニーズに応じて、学級への入り込み支援や、個別学習をしている。授業時間のうち本人のやりたい活動を本人のペースとする時間を設け、読書やジグソーパズル、アイロンビーズ、レジを使って買い物ごっこ等をしている。

○単元について

児童の身体能力や手先の器用さに本人の中でできることのかたよりが見られる。できないからとすぐあきらめたり、いらいらしたりする場面も見られる。そこで、楽しく活動する中でできる事をふやし、達成感や自信を持たせ、もっとやりたいという意欲につなげていきたいと考え、この単元を設定した。

○サーキット学習について

- ・2つの教室（なかよし教室①②）を使い、時間を区切って活動する。
- ・2グループに分けて活動する。（途中で活動の場を入れかわる。）
- ・なかよし教室①では席について手先を使う課題を設定した。結ぶ、ほどく、あける、しめる、つまむ、ならべる、輪ゴムでとめるなどの活動ができることを意識して内容を考えた。課題を風呂敷やふたのある箱に入れて開ける楽しみを持たせたり、片づけを意識できるようにしたりした。
- ・なかよし教室②では身体を動かす課題を設定した。楽しんで活動する中でバランス感覚や目と手の協応動作など、身体の使い方を意識できるように内容を考えた。手足で身体を支える動きとしてトンネルやさかのぼりを取り入れた。さかのぼりでは滑りやすいので安全に配慮して靴下を脱ぐようにさせ見守るようにした。
- ・主体的に取り組む、達成感やチャレンジする意欲が持てるよう課題を調整する。

- ・ くり返し行う中で飽きないように教具を入れ替えていく。

3. 本時の学習

(1) 目 標

- ・ 一つひとつの課題に達成感をもたせ、本人の自信につないでいく。
- ・ 全身や指先を使って楽しく活動する。

(2) 展 開

| 学 習 活 動 | ○指示 ▼支援 | 備考 |
|---|---|-------------------------------------|
| 1. 個別学習をする。 児童それぞれの課題に取り 組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれに必要な声かけや支援をしていく。 ・ はやく課題が終わった児童はリラックス タイムをとる。 | 学習プ リント |
| <div style="border: 3px double black; padding: 5px; text-align: center;"> なかよしサーキット学習をしよう。 </div> | | |
| 2. サークットの説明をき く。 | ○なかよし教室①と②に分かれてします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ①は座席に座ってする学習です。 ・ ②は身体を動かしてする学習です。 ・ 途中で場所を交代します。 ・ やった学習はチェックカードに○をし ます。 | |
| 3. なかよし①と②に分かれ る。 | ○①はAチーム（3人） 指導者・・・井上・池原 ②はBチーム（3人） 指導者・・・村上・高森 | チェッ クカー ド |
| 4. ①②でそれぞれルールを 確認してサーキットをす る。 | ▼個別に支援していく。 ▼②では安全面に配慮していく。 ▼チェックカードをつけているか確認す る。 ▼上手にできているところやがんばってい るところを認め声かけをする。 | ふろし き 生活か るた 学 習 教 具 |

| | | |
|---|--|--|
| 5. なかよし①と②の場所を交代する。 | ○それぞれの場所でのルールを確認してサーキットをはじめさせる。 | |
| 6. なかよし①に集合し、振り返りをする。 ・楽しく活動できたか ・後片付けはできたか | ▼チェックカードをあつめる。 ▼よかったところを褒め、次時への意欲につなげる。 | |
| 7. 次時の予告を聞き、終わりのあいさつをする。 | | |

4. 指導を終えて

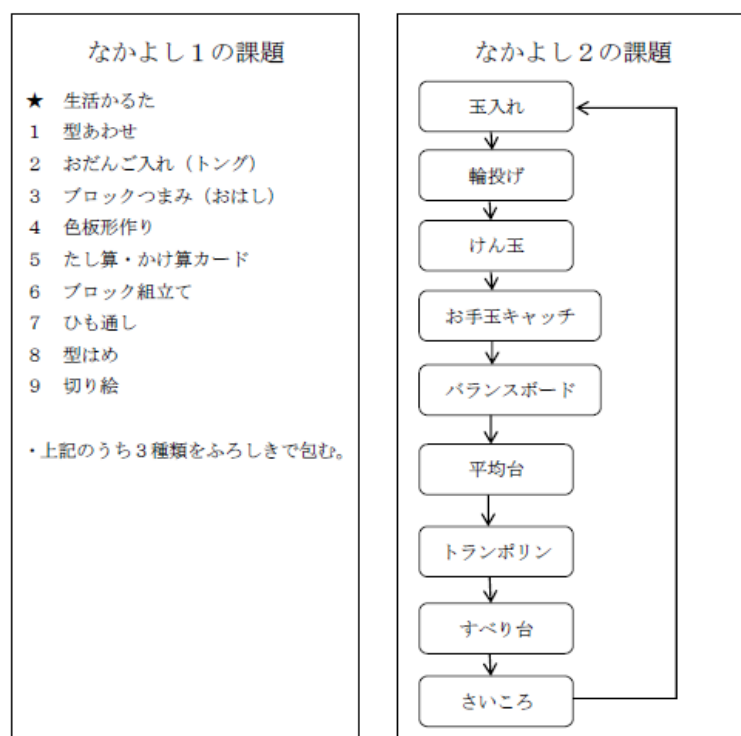
○成果

- ・チェックカードを用意したことで全ての課題に取り組めたことがわかり、達成感や自信を持たせることができた。そこから教科学習にも意欲的に取り組む姿がみられた。
- ・それぞれの課題に楽しく主体的に取り組むことができ、苦手な課題がスムーズにできるようになってきた。
- ・トンネルやすべり台の逆のぼりの課題が児童のニーズによくあっていた。

○課題

- ・身体を動かす課題ではもう少し広い場所でやれたらよかった。
- ・手先を使ってする活動で、はしを使う・輪ゴムでとめる・(ふろしき・ひも)を結ぶなどまだまだいろいろ課題があることがわかった。
- ・主体的に取り組み、達成感やチャレンジする意欲が持てるよう教具を入れ替えて課題を調整していく必要がある。

なかよしサーキット学習課題の紹介



この単位では個別学習が中心になっているが、コミュニケーション力や協調性を培ったり協力しあったり二～三人でできる活動も考えて今後のソーシャルスキルを育てる学習にもつなげたい。

なかよし①でのルール

1. いすにすわってする。
2. ていねいにあつかう。
3. できたらチェックカードに○をする。
4. おわったら、元の形にしてもどす。

なかよし②でのルール

1. スタートから1周したらチェックカードに○をする。
2. 玉入れ・わなげではできた回数を記録しよう。
3. 歩いて移動する。(走らない)
4. すべり台(さかのぼり)ではくつしたをぬぐ。手をついて上り下りする。

チェックカード

なかよしサーキット学習をしよう

名前 ()

なかよし①

☆生活かるた

☆ふろしきづつみからスタート

| | | |
|-----------|---------------|----------------|
| 1. 型あわせ | 2. たし算・かけ算カード | 3. ブロックつまみ(はし) |
| 4. 色板形づくり | 5. おだんご入れ | 6. ブロック組立て |
| 7. ひも通し | 8. 型はめ | 9. 切り絵 |

☆できたら○を書こう

ふりかえり

・楽しくできましたか・・・()

・あとかたづけはできましたか・・・()

がんばりシール

なかよし②

Aコース

玉入れ
↓
トンネル
↓
お手玉キャッチ
↓
バランスボード
↓
平均台
↓
わなげ
↓
とびこし
↓
サイコロ・トランポリン
↓
すべり台

できた数を書こう。

| | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|----|
| 玉入れ | | | | |
| わなげ | | | | |

| 1回目 | 2回目 | 3回目 |
|-----|-----|-----|
| | | |

がんばりシール

IV. 研究のまとめ

1. 研究の成果

- 前時までに学習したことや初発の感想を掲示するなど、掲示物に工夫を凝らした。これにより、既習内容の振り返りが容易になったり、一人一人が学習の見通しをもって、学習に取り組んだりすることができた。
- どの学年においても、ペア交流やグループ交流を行うようにした。全体交流の場ではなかなか発言することができない児童も、ペアやグループでは意欲的に発言することができた。また、ペア交流などを行ったことで、全体交流も深まり、読みが深くなった。
- 「のりものブックを作る」「リポーターになって紹介する」などの言語活動を設定した。これにより、課題解決型の学習過程が身に付き、45分の学習の中でも見通しをもって取り組むことができた。
- 校長戦略予算での図書購入や学校図書館部との連携により、読書がより身近になった。読みたい本、知りたい情報が近くにあることで、読書や調べ学習を抵抗なく行うことができる児童が増えた。
- 教科書にサイドラインを引いたり、本文から根拠となる言葉や文を見つけ出したりするなど、本文の叙述を基にして文章を読むようにしてきた。本文をじっくりと読み、そこから自分の考えを導き出すことで、児童の読む力が高まってきた。

2. 今後の課題

- 教材に応じた言語活動の設定をする。どんな文章にもその特性がある。教材分析を適切に行い、どの教材に、どんな言語活動を設定すればよいのか、指導者が見極めなければならない。
- 図書の計画的な活用を図る。並行読書を行うにはどの図書が効果的なのかを把握し、年間計画に位置付ける。
- ワークシートやシンキングツールを活用するなど、自分の考えを的確にまとめることができるような方法を研究する。